



セベヌザム著  
何禮之譯

民法論綱

卷四

3

和装本

711  
850  
4





ゼーベヌサム著  
何禮之譯

# 民法論綱

明治九年  
三月刻成

何氏藏版

民法論綱卷之四

中篇 財產分配法

第一回 財產ノ所有權

制法者ノ心ヲ誘フテ財產ノ法律ヲ制定セシムルノ道理ハ既ニ前篇ニ陳述セル所ナリ然レ其論ハ只富財ヲ一渾シテ概論セシニ過キサルヲ以テ此篇ニ於テハ更ニ其節目ヲ網羅シテ富財ヲ成ス所以ノ各事物ヲ詳記シ且此財產ヲ舉ケテ各人ノ所有ニ屬セシメシカ爲メニ法律ニ依頼スルニ方テ其分配法ヲ

和  
850  
4

東京堂  
學校圖書

民法論綱

卷之四

何氏藏版



調整ス可キ原理ノ所在ヲ搜索セント欲スルナリ而シテ其原理ハ即チ前編ニ論セシ所ノ生計殷實同等安固ノ四目ナリ苟モ此四目能ク協和一致シテ其秩序ヲ失セサル時ハ則チ分配ノ方法ヲ裁決スルノ實ニ容易ナル可シト雖モ若シ四目分離シテ相和セサルニ至テハ必ス其條理ヲ剖拆シテ彼此ノ輕重ヲ配量セサル可ラス

第一章 現實ノ所有

現實ノ所有トハ他人ニ先チ且ツ他人ヲシテ其事物ニ觸手セシメサルノ所有權ニシテ乃チ他ノ其權ヲ

得スシテ之ヲ爭フ所ノ各人ニ對シテ常ニ其名分アルモノ是レナリ ① 擅ニ所有者ノ物ヲ取テ之ヲ他人ニ與フルハ甲ハ爲メニ損失ヲ蒙ルモ乙ハ爲メニ利益ヲ得ルカ如シト雖モ敢テ之ヲ爲ス可ラサルノ道理アリ何ソヤ、甲ノ之ヲ得テ喜フノ分量ハ未ダ乙ノ之ヲ失フテ憂フルノ分量ニ匹敵セサル其一ナリ而シテ斯ノ如キ暴舉ハ大ニ人民ノ安固ヲ侵シ遂ニ所有者一般ノ心意ヲ擾亂スルニ至ル其二ナリ之ニ由テ現實ノ所有ハ此二者ノ憂患ヲ生ズルヲ防止センカ爲メニ創造セシ權利タルヤ明白ナリ



彼ノ最先ノ占有即チ原始發見ノ權利ト稱スルモノ  
 モ其理ハ現實ノ所有權ト同一ニシテ其物ヲ舉ケテ  
 最先ノ占有者ニ與ヘ之ニ財産ノ所有權ヲ得セシム  
 ル所以ハ全ク左ノ數件ニ淵源セサルハ死キナリ而  
 ノ其第一ヲ其人ニ失望ノ苦ヲ蒙ラザラシメンカ爲  
 ノトス否ラサルカハ則チ最先ニ占有セシ所ノモノ  
 モ他人ノ奪ヒ取ル所トナリテ所有主ハ失望ノ苦ヲ  
 嘗メサルヲ得サルナリ第二ヲ爭鬪ヲ防ンカ爲メト  
 ス否ラサルカハ則チ最先ノ占有者ニ續キテ之ヲ爭  
 ヒ取ルモノ群起シ其勢必ス戰鬪ニ至ラン第三ヲ從

來他人ノ知ラサル福利ヲ發見セシ褒賞ノ爲メトス  
 否ラサルカハ最先ノ占有者之ヲ發見スル有ルモ若  
 シ其物ハ衆人ニ知ラレテソノ奪フ所トナランコトヲ  
 恐レテ敢テ公然トシテ之ヲ占有セス究竟直接ニ其  
 福利ニ浴シ能ハサルカ故ニ其價值ハ烏有ニ委セサ  
 ルヲ得ス第四ハ餘人ヲシテ勤勞ノ精神ヲ振作セシ  
 メンカ爲メトス否ラサルカハ敢爲メ人氣ヲ鼓勵ス  
 ルニ足ラス從テ之ニ齊シキ福利ノ潛伏スルアルヲ  
 探索セサルニ至ルヘシ且此法ヲ以テ各私人ノ所得  
 ヲ増ス片ハ終ニ一國ノ富財ノ増加ニ歸スヘシ第五



若シ所有主ナキ物ヲ以テ最先ノ占有者ノ享用スル所トセサルハ其物ハ常ニ強者ノ所獲トナリテ弱者ハ始終壓抑ノ下ニ屈セサルヲ得サルヘシ凡ソ一物ヲ所有スルニ就テハ皆ナ此等ノ道理ノ存セサルハ無シト雖モソノ人心ニ映射スルニ至テハ甚タ曖昧トシテ明亮ナラス世人ハ之ヲ視テ殆ント人類天性ノ然ラシムルモノト爲シ漫然之ヲ道理公義正直ノ玄旨ニ出ルモノタルヲ主張シ滔々トシテ之ニ雷同附和シ絶エテ一人ノ其所以ヲ解明シ能フモノナシ慨嘆ニ堪ヘサルナリ夫レ事物ノ所有ヲ

分配スルニ方テ確乎タル道理ニ淵源シテ毫モ間然スル所ナカラント欲スルニハ新ニ一ノ理趣ヲ得テ之ヲ維持セサル可ラス而シテ能ク此理趣ヲ得ルハ他ナシ明カニ實利ノ原理ニ依頼スルニ在ルノミ最先ノ占有者ノ權利ハ即チ財産ヲ造爲スル所ノ基礎ナルカ故ニ水中新ニ島嶼ヲ察知シ或ハ新ニ土地ヲ發見スルカ如キハ其所有權ヲ舉テ其人ニ付與スルモ敢テ妨ケ无シ而シテ其上ニ政府ノ權利即チ君權ヲ施用スルハ當然ノ事トス

第二章 實意ニ出タル久用權ニ由ルノ所有



物件ヲ占有スルニ已ニ法律ニ依テ制限セシ一定ノ年月ヲ經過スル時ハ則チ其人ニ所有ノ權利ヲ付與セサル可ラス何トナレハ彼レ其所有主タルモ制限ノ年月中絶エテ其權利ヲ主張スルコトナク之ヲ棄テ、顧ミサルヲ以テ法律ニ於テ彼レハ已ニ其物件ノ有ルコト忘却セルナリト看做シ或ハ之ヲ忘レサルモ亦之ヲ占用スルノ志意ナシト想像スレハナリ然ルレバ彼レハ既ニ其物ヲ占用スルノ希望アルコト無ク我ニ在テハ其志意ヲ抱クノミナラス專ラ之ヲ保存セント欲シテ之ヲ我カ所有ニ歸セシモノニテ固ヨリ

安固ニ理ニ乖戾セサルナリ然ルニ若シ之ヲ我ニ取テ彼ニ歸セハ則チ安固ヲ害シ終ニ昔時ヨリ實意ヲ以テ久用ノ權利ニ依頼スル所ノ所有者ヲシテ其心意ヲ動搖セシムルニ至ラン然ラハ則チ原所有主ヲシテ希望ノ心ヲ脱セシムルハ幾多ノ年月ヲ必須ナリトスルヤ語ヲ換ヘテ之ヲ言フレハ法律ニ依リテ財産ヲ現ノ所有者ノ掌握ニ歸シ之ヲ争フヘキ他ノ權利ヲ絶ツニハ幾多ノ年月ヲ經過スヘキヤ曰ク精密ニ之ヲ限定スヘキ年月ナシ唯々其物ノ品質價直ニ應シテ臆測ノ限畧ヲ下サ



、ルヲ得サルノミ而シテ此ノ界線ハ常ニ其物ニ因  
 縁アル諸人ノ失望ヲ遏ムルヲ能ハスト雖モ彼物  
 ヲ失フノ苦痛ヲ覺エシメサルニ至リテハ其效用必  
 ス少ナカラサルナリ、何トナレハ法律ノ恆ニ人心ヲ  
 警戒スルアリテ若クハ一年、十年、乃至二十年ノ間所  
 有主ノ怠慢ニ由テ物件ヲ放棄シソノ權利ヲ主張ス  
 ルナクシハ終ニ之ヲ失フヘキヲ覺悟セシメ而シテ其  
 法律ハ人心ヲ約束シテ敢テ安固ノ理ヲ害セサルノ  
 爲ナラズ又怠慢ヲモ防クヨリ得ヘケレハナリ  
 斯多上ニ説クハ唯誠實ノ心ヲ以テ物件ヲ所有シ自

ラ其權利アリト確信スル人ニ限リテ然ルモノナリ  
 若シ其心誠實ナラサルニ徒ニ物件ヲ所有セシムル  
 片ハ毫モ安固ノ利益トナルヲナク適罪惡ヲ喪勤ス  
 ルモノト謂フヘシ假令予ストル按故事ナリ僥倖ニ  
 シテ物ヲ得ルヲ云  
 フノ世ニ在ルモ豈是ノ如キ物件ヲ所有セシメ以テ  
 其不義ヲ賞スルノ理アラニヤ嗚呼一定ノ年月ヲ制  
 定シテ以テ不義者ノ心ヲ縱容安易ナラシムルハ將  
 タ何ノ爲メナルヤ又法律ヲ以テ之ヲ犯ス人ヲ保護  
 シ其不義ヨリ生スル所ノ果實ヲ食マシムルハ將タ  
 何ノ爲メナルヤ決シテ其道理アルヘカラサルナリ



其物件ヲ紹續スル人ニ至テモ亦之カ區別ヲ立テサ  
 ル可ラス何トナレハ其人果シテ誠實ノ心ヲ以テ自  
 ラ所有ノ權アリト信用スル片ハ即チ先キノ所有者  
 ニ付與スル所ノ道理ニ依テ之ヲ其所有ニ歸スヘキ  
 ノ情由アリ若シ之ニ反シ其人先人ニ比シク誠實ノ  
 心ナキ片ハ即チ先人ノ不義ヲ助クル從犯タルカ故  
 ニ敢テ其欺詐ノ罪ヲ寛假スル能ハサレハナリ  
 誠實ノ心ニ亞ク第二ノ權利ハ所謂プレスクリプシ  
 ヨン慣習ノニシテ其道理ノ淵源スル所ハ所有者ニ  
 失望ノ心ヲ生セシメス且一般ノ所有者ニ安固ノ理

ヲ認得セシメンコトヲ欲シテ計リ  
 第三章 土地ニ含ム所ノ物件及ヒ其產物ノ  
 所有  
 土地ノ財產トハ其地中ニ含有スルモノト之ヨリ產  
 出スル一切ノ物件トニシテ即チ鑛物石屬ノ如キ之  
 ヲ含有スルモノトシ一切ノ植物之ヲ產出スル者ト  
 ス若シ土地ヲシテ此ノ含有物ト產出ノ物ト除キ  
 去ラシメナハ其價值ハ直ニ烏有ニ歸ス可シ故ニ今  
 此二件ヲ以テ財產ノ權内ニ包括セシムルノ理ハ乃  
 チ安固ヲ保チ生計ヲ營ミ且全國ノ富ヲ増シ安寧ノ



福ニ浴セシムルノ趣意ニ出テサルハナキナリ  
第四章 土地ニ由テ生養セラレ且土地ニ歸  
スルモノ、所有

果シテ我カ所有ノ土地ニ獸類ヲ生養セン耶乃チ其  
生ヲ保チ養ヒテ仰ク所以ノ根源ハ全ク我カ所有ニ  
外ナラサルカ故ニ若シ此獸類ヲ所有スルモ一定ノ  
報償ヲ得スシテハ之ヲ飼養スルモ適以テ我カ損失  
ヲ招クノミ○若シ法律ニ依テ此獸類ヲ取り之ヲ他  
人ノ所有ト爲スコトアラシニハ則チ其物ハ我カ全耗  
ト爲リ他人ハ純益ヲ得テ其措置ノ安固ノ道ト同等

ノ理トニ乖戾スルハ固ヨリ論ヲ俟サル所ニシテ遂  
ニ不得レ已其獸類ノ頭數ヲ減シ其蕃息ノ機ヲ妨ケ究  
竟一國ノ公富ヲ減損スルニ至ラン  
若シ偶然我カ地上ニ未タ人ノ財産トナラサルノ物  
件或ハ其所有主ノ知レサルモノ投シ来ルコトアリ譬  
ハハ鯨魚ノ暴風ニ漂ハサレ或ハ破船ノ材板、抜根ノ  
樹水流レテ濱岬ニ達スルカ如キハ直ニ之ヲ濱岬ノ  
所有主ニ占得セシムルモ決シテ不可ナシトス蓋シ  
其地主ハ敢テ他人ニ損失ヲ與ヘス巴カ利益ヲ得ル  
ノ地位ニ居ルヲ以テ若シ之ヲ其地主ニ與ヘサル片



民法論綱 卷之四 何氏藏板

ハ必ス其失望ノ苦ヲ生セサル能ハス且他人ハ其地ヲ占有セス其權ヲ侵犯セスシテ之ヲ已カ所有ト爲ス可カラサルノ理アリ是レ最先ノ占有者ノ權ヲ以テ之ヲ地主ニ與フル所以ノモノナリ

第五章 隣接ノ地ヲ所有スル

今若シ河海アリテ所有主ナキノ土地ヲ汎濫シ而シテ其水退クノ後一箇ノ新地ヲ現出スルコトアラハ其所有ノ權ハ果シテ誰ニ屬スヨキヤ曰ク固ヨリ之ヲ隣地ノ所有者ニ付與セシ何トナレハ毫モ他人ノ財産ヲ侵スコトナクシテ能ク之ヲ占有スルハ全ク隣地ノ

主人ニ在リテ然リトス是レ其一ナリ此新地ニ就テ希望ノ心ヲ起シ其水ノ未タ退カサルニ方テ之ヲ已カ所有ト見做スヘキモノハ亦隣地ノ主人ニ在リテ然リトス是レ其二ナリ水退クノ後新地ヲ得ルノ良機ハ即チ水漲キルニ方テハ舊地ヲ失フノ惡機ヲ償フモノトス是レ其三ナリ然リ而シテ水中ヨリ現出セシ土地ヲ舉ケテ之ヲ隣地ノ所有トスルハ彼ノ開拓ノ業ニ必須ナル勤勞ノ精神ヲ興起セシメ以テ褒賞ノ作用ヲ爲スニ足レリ是レ其四ナリ

原註 理論ハ應サニ斯ノ如シト雖モ而モ其實施

民法論綱 卷之四 九 可氏藏板



ニ至テハ許多ノ委曲調停ヲ費サ、ル可ラス、然  
 ラサレハ羅馬法皇ノ嘗テ新世界ヲ舉テ西班牙  
 葡萄牙ニ分有セシノタル不公平ノ舉措ニ類似  
 スルニ至ラン○譬ヘハ水退クニ方テ其沿岸ニ  
 許多ノ地主アラシニ之ヲ數人ニ分配セント欲  
 セハ各人ノ所有スル地面ノ廣狹ニ應シテ之ヲ  
 定ムヘキカ抑、又其濱岸ノ長短ヲ測リテ之ヲ定  
 ムヘキカ曰ク必ス境界線ヲ劃セサル可ラス然  
 レレ一旦其事起リ其價ヲ知ルニ及テハ各人之  
 ヲ所有セントスルノ希望心アリ而シテ其希望ノ

心ヲ達シ得ルモノハ其中ノ一二人ニ止マリ其  
 餘ハ之ヲ得サルカ故ニ其時ニ臨ミテ之ヲ定ム  
 ルモ業已ニ事機ニ後レテ其實効ヲ得サルヘキ  
 カ故ニ須ラク之ヲ未發ノ時ニ預定セサル可カ  
 ラス蓋シ其事ノ未タ起ラサルハ各人未タ希  
 望ノ心ヲ發セスシテ之ヲ處分スルニ制法者ノ  
 意ノ如クナラサルハ死ケレハナリ  
 第六章 自己ノ所有物ヲ改良スル  
 若シ我レ己ニ吾カ所有ニ属スル物件ニ勞作ヲ加フ  
 ルハ我カ權利ヲシテ從テ一層ノ勢力ヲ増サシム



ヘシ譬ハハ此菜蔬ハ我レ其種ヲ播キ之ヲ培養セル  
 カ故土地ノ産物ト爲リテ我カ所得ニ歸シ此牛羊ヲ  
 飼ヒ此根實ヲ採リ此樹木ヲ剪リテ之ニ斧斤ヲ加フ  
 ルヲ以テ我カ所用ト爲スヘキニ若シ從來ノ功勞ヲ  
 顧ミス突然之ヲ奪取シテ我カ所有トセサルニ至テ  
 ハ我ノ苦痛ハ果シテ幾許ソヤ抑其物件ヲシテ新價  
 ヲ生セシメソノ愛好ノ情ヲ堅固ニシ之ヲ保持セン  
 ト欲スルノ希望心ヲ生セシハ一モ我カ功勞ノ効果  
 ニアラサルハ無シ之ニ據テ之ヲ見レハ安固ノ道ヲ  
 以テ勞作ノ果實ヲ保護スルヲ微クシハ誰カ敢テ勞

ヲ積ミカヲ竭シテ以テ將來ノ福利ヲ種ユルモノア  
 ラン是レ乃チ改良セシ物件ノ利益ヲ擧テ之ヲ全ク  
 所有主ニ與フル所以ナリ

第七章 誠實ヲ以テ他人ノ所有物ヲ改良ス  
 ル

然ルニ若シ他人ニ屬スル所ノ物件ニ勞作ヲ加ヘテ  
 之ヲ視ルヲ復タ我カ所有ノ如キモノアリ譬ハハ我  
 レ他人ノ羊毛ヲ剪リ之ヲ以テ一匹ノ絨布ヲ製セハ  
 此絨布ハ我カ所有ニ歸セン耶將タ他人ニ屬セン耶  
 曰ク之ヲ判斷スルヲ極メテ難シ預シノ其事實ノ如



何ヲ審究セサル可カラス抑我レ此物ヲ視テ我カ財  
 産ノ如クニセシハ果シテ誠實ノ心ニ出シヤ或ハ否  
 ラサルヤ若シ誠實ノ心ニ出スシテ其製品ヲ舉テ我  
 レニ付與セラル、ハ即チ罪惡ヲ惠ムト言フ可シ假  
 令我カ誠實ノ心ニ出ルモ必ス先ツ彼此ノ情實ヲ比  
 較シテ果シテ其原物ノ價ヲ以テ著大ナリトスルカ  
 或ハ之ニ加ヘシ勞作ヲ著大ナリトスルカ將タ又舊  
 所有主ノ之ヲ失フテヨリ幾多ノ年月ヲ經過セシヤ  
 將タ後ノ所有主ノ之ヲ得シハ已ニ幾久シキニ及フ  
 カ且ソノ所在ノ土地及ヒ其權利ヲ主張ヒシ時ニ方

テ其土地ハ我カ所有ニ屬ヒシヤ又舊所有主ニ屬セ  
 シヤ或ハ又他人ノ所有ニ屬セルカ預シメ其事實ノ  
 如何ヲ審究シテソノ利害ノ輕重ヲ酌量セサル可ラ  
 サルナリ  
 始メヨリ苦樂利害ノ深淺ヲ測量セス審カニ彼此ノ  
 情實ヲ推究セス之ヲ我レニ與ハサレハ必ス彼ノ所  
 有ニ歸シ彼レニ取リテハ必ス之ヲ我レニ與ヘテ敢  
 テ其間ニ委曲周折ヲ費スヲ無キ之ヲ任意專裁ノ理  
 趣ト云フ實利ノ原理ニ至リテハ然ラス假令避クヘ  
 カラス免ルヘカラサルノ不利アリト雖モ務メテ之ヲ



民法論綱 卷之四

何氏辯林

輕減シテ最下ノ點ニ至ルヲ以テ其目途ト爲スカ故ニ益、彼此ノ利害ヲ慮リ而メ之ヲ調停スルノ方便ヲ求メテ之カ報償ヲト定シ若シ齊シク二人ノ討求ニ應シ難キカ如キアラハ其害ヲ被ムル最モ大ナル一人ヲ撰ミテ此物件ヲ所有セシメ此人ニ命シテ他ノ一人ニ満足スヘキ報償ヲ爲サシムルモノナリ茲ニ溶鑛爐アリ其中ニ盛ル所ノ金屬交雜シテ一塊ト爲リ敢テ彼我ノ別ヲ認ム可ラサルアリ或ハ我レニ屬スル飲液ヲ彼カ器皿ニ濺キテ其飲液ト混和シテ辨別シ難キアリ、右兩様ノ如キ彼我ノ物品ノ混雜

スル案件ノ此二者ノ如キヲ判斷スルニ於テハ必ス同上ノ原理ニ頼ラサル可ラス○此混雜セル全量ヲ以テ果シテ彼我ノ間那ノ一人ニ與フヘキヤヲ決定セントシテ彼ノ羅馬ノ法律士ハ大風波ヲ生シテサビニマンノ學派ハ宜シク之ヲ我レニ與フヘシト論シテプロキリヤンノ學派ハ宜シク之ヲ彼ニ歸スヘシト判斷セリ、知ラス孰レヲ以テ其當ヲ得タリトスヘキ曰クニ派ノ論俱ニ其一人ヲシテ必ス物ヲ失フノ苦痛ヲ蒙ラシムルカ故ニニツナカラ其當ヲ得タリト謂フ可ラス茲ニ一言ヲ加ヘテ以テ其斷案ト爲シ

民法論綱 卷之四

可氏辯林



以テ縷々ノ論緒ヲ絶タシ夫レ二人ノ間ニハ必ス其  
所有ノ權ヲ失フニ就テ最大ノ害ヲ蒙ルモノアラ  
シ即チ其最大ノ害ヲ蒙ル者ニ之ヲ判與シ而ノ他  
ノ一人ノ害ヲ蒙ルル少ナキ者ニ其報酬ヲ得セシ  
ムルニ在ルノミ

英國ノ法律士ハ亂絲ヲ理ムルノ翳刀ヲ用ヒテ此難  
題ヲ斷一斷シ曾テ孰レカ最大ノ害ヲ蒙ルハキヤ  
ヲ推問シ又誠實ノ心ニ出テシヤ否ヤヲ究察シ及ヒ  
ソノ實價ノ多少並ニ希望ノ心ノ厚薄ヲ比較スル  
ヲ要セス都テ動産ハ常ニ之ヲ現ノ所有者ニ判與シ

而ノ之ヲ得シ者ニ命シテ先キノ主人ニ相當ノ報償  
ヲ得セシムルヲ以テ常例トセリ

第八章 他人ノ地中ニ礦物アルヲ發見スル

人有リ其所有セル地心ニ貨財ヲ包藏スルモ獨リ彼  
レ知識ニ乏シク或ハ之ヲ採ルノ方便ヲ有セス或ハ  
之ヲ有スルモ其成功ノ必シ難キノ故ヲ以テ敢テ之  
ヲ開採スルノ事業ヲ興サス徒ニ天下ノ至寶ヲシテ  
地中ニ埋没セシノタリ然ルニ我レハ其土地ノ所有  
權ヲ得スト雖モ然カモ彼力缺乏スル開採ノ方便ヲ



所有スルカ故ニ其事業ヲ起サント欲セハ彼レカ承  
諾ヲ經サルモ之ヲ開採スルノ權利アルノ利益タル  
ニ若カサルヘシ果シテ然ラハ空シク彼レカ地中ニ  
在リテ終ニ世ニ顯ハレ人ノ用ヲ爲サ、リシ處ノ寶  
貨モ唯之ヲ開採シテ我カ所有ニ歸セシカ故忽チ大  
價ヲ得テ世上ノ通貨トナリ以テ萬民ノ勤勞ノ心ヲ  
鼓舞スルヲ得ヘシ且彼レカ利用ノ源トスル所ハ  
唯地上ノ表面ニシテ我カ取ル所ハ單ニ其地中ニ在  
レハ固ヨリ其表面ヲ害セスシテ敢テ彼レニ損害ヲ  
與フルヲナク彼レ亦物ヲ失フノ苦ヲ免カルヘシ答

ヘテ曰ク然ラス法律ハ務メテ衆庶ノ利益ヲ保護ス  
ルモノナレハ今其作用ニ頼リテ生産セル貨財ノ幾  
分ヲ報償トヒサルヘカラス何トナレハ眼前此貨財  
ヲシテ彼レカ地中ニ在ラシムルハ固ヨリ無用ニ屬  
スルカ如シト雖モ焉ンソ知ン彼レハ之ヲ以テ一定  
ノ利益ヲ他日ニ希望セサランヲ故ニ若シ報償ヲ  
與ヘスシテ之ヲ取ルハ即チ彼レカ利益ヲ得ルノ良  
機ヲ奪フト言ハサル可カラス  
是レ英國ノ法律ノ理趣ナリ然リト雖モ或ル地方ニ  
於テハ時宜ニ依リテ何人ヲ問ハス若シ鑛坑ヲ發見



民法論綱 卷之四 何氏義反

スル片ハ其鑛脈ヲ追蹤シテ他人ノ地中ニ穿テ到ル  
トヲ准許スルモノアリ

第九章 大水上ニ在リテハ漁獵ノ自由アル

ハキ

大湖、大河、大灣、就中大海ノ如キハ固ヨリ一人ノ私有  
スヘキ財産ニ非サルカ故ニ一人モ之ヲ已カ所有ト  
認ムルモノ無シ乃チ反語ヲ以テ之ヲ言ハハ衆庶ノ  
公有ニ属スルモノナリ  
故ニ海上漁獵ノ權利ハ斷シテ之ヲ制限スルノ道理  
ナシ何トナレハ夫ノ鱗族ノ漆々タル取テ盡キス用

テ窮マラス固ヨリ他物ノ及フ所ニアラス嘗テ博物  
學士レフ<sup>エ</sup>ンホルク氏ナルモノ鰈魚ノ一胎卵ヲ取テ  
之ヲ核算セシニ其數全ク六百萬粒ヲ得タリト蕃殖  
ノ巨多ナル實ニ造化ノ無盡藏ト言フハシ然ルニ人  
類此造化ノ無盡藏ニ資テ其身ヲ養ヒ其腹ニ充ルモ  
ノ亦著大ナラサルニアラスト雖モ之ヲ人カノ得テ  
奈何トモス可ラサル氣形ノ運行ニ由テ殘害セラレ  
、モノニ比セハ特ニ萬分ノ一二過キス縱令幾多ノ  
輕舟ヲ浮ヘ網罟緝釣ニ依リテ之ヲ侵漁スルト雖モ  
其殘害スル所ハ必竟貪饕ナル鰐魚ノ一吞ニ如カサ

民法論綱 卷之四 十六 何氏義反



民法論綱 卷之四 七

ルナリ然レ氏是レ洋海ノ鱗族ヲ言フモノニシテ夫  
ノ江湖川灣ノ如キニ至テハ法律ノ作用ニ依リテ之  
ヲ保存スルノ預圖ナクンハ遂ニ隻魚ヲ見サルニ至  
ラン

然ラハ則チ海上ノ漁獵ニ數多ノ爭競者アルモ敢テ  
彼此ノ嫉妬ヲ懷クヘキ情由ナキカ故ニ若シ一國ノ  
財源ヲ減スルノ患アラサルハ宜シク各人ニ最先  
ノ占有者ノ權利ヲ得セシメ以テ萬民ノ勞作ヲ勸勵  
シ以テ一國ノ殷富ヲ増殖スルノ方便トナスヘキナ  
リ

第十章 無主ノ地ニ於テハ狩獵ノ自由アル

或ハ耒鋤ノ工ヲ施サス或ハ所有ノ人ヲ見サルノ土  
地ト曠野深林ノ如キハ其理恰モ大海ニ於ルト一般  
ナルヲ以テ夫ノ疆域廣漠人口稀疎ナル邦土ニ至テ  
ハ無主ノ地數多ニシテ猛獸ノ人類ニ抵觸スルモノ  
少ナカラサルヲ以テ務メテ狩獵ヲ自由ニスルハ帝  
ニ他人ノ害ヲ除クノミナラス却テ其人ヲシテ生計  
ノ資ヲ仰カシムル所以ノモノナレハ毫モ其權利ヲ  
制限ス可ラス

民法論綱 卷之四 七



民法論綱 卷之四

何由辨

然リト雖モ稼穡ノ道大ニ関ケ無主ノ土地甚タ少ナク各其所有主アリテ之カ財産ト為リタル開化社會ニ於テハ狩獵ノ權利ヲ制限セサル可カラサルノ理趣アリ乃チ其條款ヲ左ニ掲ク  
第一ノ不利○蓋シ人口稠密ナル國土ニ於テ野禽ヲ殺獲スルノ數ハ迥カニ其生育ノ數ニ逾ユルヲ以テ若シ之ニ狩獵ノ自由ヲ許シテ顧ミサルハ其目的トスル處ノ禽類著シク減少シ終ニハ其種屬ヲ絶ツテ子遺有ル靡ラン其時ニ當テ獵人カ一隻ノ鷓鴣ヲ獲ルノ勞ハ即チ今日百頭ヲ獲ルノ勞ニ比シク從テ

其價ハ累進シテ百倍ノ貴キニ至ルヘシ然レモ獵人ハ自ラ甘シテ損失スルモノニ非ラス必今日ノ價ノ百分ノ一ナルモノヲ世人ニ與ヘテ以テ其百倍ノ價ヲ求ムルナル可シ故ニ畧シテ之ヲ言ヘハ世人ノ嗜ム所ノ鷓鴣ノ滋味ハ今日ニ比スレハ減シテソノ百分ノ一ニ下レリト  
第二ノ不利○狩獵ノ業タル之ヲ自餘ノ勞作ニ比スレハソノ贏利甚タ僅々ナリ然ルモ不幸ニシテ世人ヲシテ之ヲ嗜マシムル所以ノモノハ即チソノ事タル勞苦ノ中ニ娛樂アリ遊惰ノ中ニ操作アリ危險ノ

民法論綱 卷之四 十六 可



中ニ榮譽アリ能ク人性ヲ誘掖シテ之ニ嗜僻セシム  
ルニ足ルニ由リテ各人争フテ此業ニ従事シ終ニ彼  
此ノ競争ヲ以テ勞作ノ價ヲ減スルカ故ニ其贏利ハ  
僅カニ生計ノ資ト爲スニ過キス從テ此業ニ従事ス  
ルモノハ互ニ貧困ノ域ニ陥ルニ至レリ  
第三ノ不利○狩獵ハ終年ノ定業ニアラス必ス其時  
季ノ在ルアリテ時季已ニ去レハ獵者ハ許多ノ時間  
ヲ徒然坐食シテ再ヒ此時季ノ至ルヲ待タサル可カ  
ラス然ルニ獵者ハ生來唯活潑ノ操作ニ慣習スルヲ  
以テ一朝俄カニ寧靜ナル事業ニ遷リ其散漫ノ自由

ヲ去リテ順柔ナル行儀ニ變シ遊惰ノ身行ヲ悛メテ  
勞作ノ工業ニ従事スルカ如キハ絶エテ能ハサル所  
ニシテ恰モ博徒ノ如ク胸中專ラ僥倖ト希望ノ二件  
ニ倚頼スルヲ以テ少數ノ收益ヲ以テ其心志ヲ改メ  
テ他ノ事業ニ就カシムル能ハス遂ニ貧困遊惰ノ極  
ハ自ラ罪惡ヲ作サルモノナキニ至ラン  
第四ノ不利○狩獵ノ一業ニハ頗ル罪惡ヲ胚胎スル  
原由ノ如キモノアリ譬ヘハ諍論訴訟糾彈杖罪禁錮  
等ノ如キ往々此業ニ依リテ醸出スルモノ少ナカラ  
サレハ畢竟其快樂ハ其青害ヲ蔽フニ足ラス今其一

民法論綱 卷之四 十九 可心藏反



ヲ舉テ之ヲ説カン茲ニ一個ノ獵人アリ終日路上ヲ  
奔走セシモ未タ一隻ノ所獲アラス身疲レ脚麻スル  
ノ時偶然他人ノ藩籬内ニ野禽アルヲ窺ヒ知リテ竊  
カニ之ヲ得ントスルニ方テ忽チ他人ニ誰何セラル  
、フアレハ百方詭詐ヲ盡シテ其踪跡ヲ隠シ若シ目  
撃スルノ人ナクハ直チニ其藩籬ヲ犯シ穿竄シテ  
憚ル所ナカラシ是レ廉慎ノ心ハ全ク所獲ヲ貪ルノ  
情欲ニ奪ハレ終ニ其身ハ不測ノ淵ニ墮リテ損害ヲ  
蒙ルニ非スハ必ス法網ニ罹リテ其生命ヲ危ク  
セスンハアラサルナリ

若シ路上ニ於テ狩獵ノ權利ヲ許スバハ獵人ノ徘徊  
シテ法禁ヲ犯スフ極ノテ許多ニシテ假令之ヲ防禦  
セント欲シテ幾萬ノ巡查ヲ設置スルモ斷シテ之ヲ  
制遏スル能ハサルハシ  
第五ノ不利○斯ク狩獵ノ權利ヲ制限スル時ハ自由  
ニ之ヲ爲スモ其害ナキノ區域ハ極ノテ狹小ニシテ  
從テ其贏利モ亦極ノテ僅々ニ過キス且之ニ加フル  
法律ハ其條目ノ増加スルニ從テ作用衰弱スルモ  
ノナレハ今若シ之ヲ准許スルニ至テハ必ス先ツ其  
區域ヲ定メ其犯則ヲ罰スル等爲メニ數多ノ民法



刑法ノ條目ヲ増加セサル可ラス終ニ煩苛ノ弊ニ堪  
ヘサルヘシ此故ニ狩獵ノ如キ罪ヲ犯スニ易ク而モ  
人ヲ誘フニ便ナルノ事業ヲ防カントシテ更ニ刑罰  
ヲ嚴ニスルハ田園ニ富ム者ハ常ニ戒心ヲ懷キテ  
彼ノ貧窮ナル隣人ノ穿窬ヲ扞禦シ終始其財産アル  
カ爲メニ多少ノ煩難ヲ招カサル能ハス然レハ則チ  
此不利ヲ芟鋤シテ痕跡ナカラント欲ヌルニハ寧ロ  
狩獵ノ權利ヲ調整セシヨリハ初メヨリ斷シテ之ヲ  
准許セサルノ勝レルニ若カサルナリ  
已ニ狩獵ノ法禁タルヲ知レハ人民ハ其特准ヲ得

ルノ思念ヲ絶チ從テ其鷓鴣ヲ嗜ムノ心情ハ變シテ  
家鷄ヲ嗜ムノ心情ト爲リテ更ニ之ヲ懇望セス若シ  
偷カニ狩獵ヲ爲モノアレハ直ニ盜賊ノ惡行ヲ以テ  
之ヲ視ルニ至ラン  
今日ノ輿論專ラ狩獵ノ權利ヲ准許スルノ一端ニ偏  
倚スルハ固ヨリ啾々ヲ待タサル所ナリ然リト雖モ  
制法者カ己ムヲ得サルノ形勢ニ當テ黙シテ此輿論  
ニ屈從スヘキハ特リソノ氣焰甚々猛烈ニシテ方向  
ヲ轉セシムヘキ方略ヲ得サルノ時ニ在リテノミ然  
リトス苟モ制法者ニシテ艱難ヲ厭ハス其職務ニ鞅



掌シ一ニ國民ノ心ヲ啓牖スルヲ以テ一身ノ責任ト  
爲スアリテ諄々トシテ能ク法律ノ趣意ヲ解明シ法  
律ハ人民ノ安寧ヲ進ノ其安固ヲ保ツノ方便タルヲ  
ヲ説諭シ而ノ人民ヲシテ獵者ノ生業ハ不幸薄福之  
ヨリ大ナルモノナク營業ノ際絶エス罪犯ニ陥ルノ  
患アリ從テ其妻子ハ貧困ニ迫リ名譽ヲ損害スル少  
ナカラサルヲ通知セシムルニ於テハ狩獵ノ情欲  
ヲ減殺シテ殆ト絶無ニ至ラシムルモ亦何ノ難キ  
カ之アラン故ニ輿論ハ其勢頗ル剛健ナルカ如キ  
モ若シ道理ノ柔カヲ以テ之ニ當リテ懇々倦ムトナ

クシハ終ニ其方向ヲ轉セシムルヲ得可シ是レ余カ  
敢テ保証スル所ナリ

ヒルドレット曰ク本文論スル所ノ狩獵自由ノ權ニ  
由テ醸出セシ五項ノ不利ニ於テ第二第三、第四ノ  
大意ハ開化社會ニ在テ狩獵ノ業ハ私民ノ損、公衆  
ノ不利ト謂フニ過キスシテ其事實恰モ記者ノ論  
述スル所ニ違フ一死ケレハ今此論趣ヲ採用スル  
モノト假想シ初ヨリ狩獵ノ自由ヲ准許シテ毫モ  
制限ヲ加ヘサルトスル時ハ獲物漸ク減シテ終ニ  
其類ヲ絶チテ乃チ第一ノ不利ノ如キニ至ラン其



時ニ當テハ狩獵セント欲スルモ獲物ナク狩獵ノ  
害ハ自ラ止ミテ却テ社會ノ利ト爲ル可シ然ルニ  
記者ノ眼光曾テ茲ニ注キ到ラサルモノ、如シ彼  
ノ米國ノ馬邦ヲ見スヤ已ニ狩獵スヘキ獲物ナケ  
レハ一モ此業ニ従事スルモノナク從テ其法律ヲ  
ルヲ聞カス是レ自由ノ狩獵ハ却テ狩獵ノ害ヲ防  
クニ足ルヲ徴ス可シ

然リト雖モ夫ノ狐狸、豺、狼、熊、羆ノ如キ家畜ヲ殘害ス  
ル所ノ野獸ニ至テハ之ヲ殺シテ其皮肉ヲ獲ルモ畢  
竟其價值ハ其生前ノ害ヲ補償スルニ足ラサレハ

テ此等ノ獸類ハ勉メテ之ヲ屠殺シ敢テ子遺ナカラ  
シノシトヲ要スルカ故ニ若シ之ヲ殺獲スルモノア  
ラハ其土地ノ何人ニ屬スルヲ問ハス直ニ其獲物ヲ  
舉テ之ヲ其人ニ與フヘシ蓋シ人類ヲ殘害スル所ノ  
野獸ヲ獵獲スル者ハ之ヲ視テ警吏ノ助手ト爲スモ  
敢テ妨ル所ナケレハナリ然レ氏此一則ハ法律ノ變  
格ナルモノニシテ固ヨリ害ヲ爲スノ獸類ヲ除クノ  
外ハ斷シテ之ヲ施行ス可ラス

第二回 承諾ヲ經タル所有法

法律上ノ權利ニ由リテ物件ヲ所有スル人ノ其權利



ヲ放棄シテ之ヲ他人ニ受用セシメント欲スルノ情願ヲ起スアルモ亦時トシテ止ムヲ得ケル所ナリ○斯ノ如キ彼此ノ授受ニ於テ法律ヲ以テ之ヲ准允スルハ固ヨリ理ノ當ニ然ルヘキ所ナレハ敢テ疑ヲ其間ニ容ル、ニ由ナシ然ラハ則チ此授受ノ時ニ方テヤ舊所有主ヲ保護スヘキハ理由ハ直ニ移シテ之ヲ新所有主ニ歸セサルヲ得ス而シテ舊所有主ノ已カ所有セル物件ヲ放棄スルハ必ス之ニ就テ一定ノ意見ハ即チ之ヲ放棄シテ新ニ得ル所ノ歡樂并ニ歡樂ニ比シキ心情ニシテ細カニ之ヲ解剖スレハ乃チ其

價ヲ求メスシテ之ヲ他人ニ施與スル是ヲ交誼ノ樂意ト云ヒ或ハ慈善ノ樂意ト云ヒ、交易ノ目途ヲ以テ之ヲ放棄スル是ヲ他ノ物件ヲ得ルノ樂意ト云ヒ、或ル災害ヲ避ケンカ爲メ之ヲ與フル是ヲ安固ヲ希望スルノ樂意ト云ヒ他人ノ尊敬ヲ得ンカ爲メ之ヲ與フル是ヲ名ヲ沽リ譽ヲ釣ルノ樂意ト云フ蓋シ交換ハ之ヲ授クルモノモ之ヲ受クルモノモ互ニ其福利ヲ增長セシムルモノニシテ新所有主ハ直ニ其物件ヲ所有シテ其利益ヲ享用シ舊所有主ハ之ヲ放棄シテ以テ新ニ他ノ利益ヲ享用シ得レハ其所有主ヲ換

民法論綱 卷之四 廿四 可七



エル所ノ物件ハ必ス其一授一受ノ際ニ於テ之ニ因  
 リテ一定ノ利益ヲ生ス可キモノナルカ故ニ制法者  
 ハ宜シク各個ノ授受ハ利益ヲ包含スルモノタルノ  
 法訣ヲ服膺シ務メテ人民ヲシテ其間ニ生スル所ノ  
 利益ヲ享用セシムヘシ  
 故ニ物件ヲ交換スルハ則チ二層ノ授受アルカ如ク  
 各人各個ノ利益アリテ此利益ハ即チ交易ヲ爲ス處  
 ノ各人カ其放棄スル物件ノ價ト新タニ得ル所ノ物  
 件ノ價ヲ乗除シテ得ル所ノ餘贏ナレハ凡テ此類ノ  
 事務ニ於テハ新タニ二層ノ福利ヲ受用スルヲ得

ヘシ是レ之ヲ交易上ノ利益ト謂フナリ  
 凡百ノ工藝術術ノ中ニ多數ノ工人カヲ協セ課ヲ分  
 タサレハ製出シ能ハサルノ器具益シ尠シトセス此  
 時ニ方テ一人ノ勞作ノミニテハ本人ノ爲ノ又ハ他  
 人ノ爲ノ毫モ其價值アルヲ無シ唯之ニ價值ヲ付與  
 スルハ單ニ交易ノ一途アルニ頼ルノミ  
 第二章 交易ノ效用ヲ爲サ、ル事情  
 然リト雖モ又法律上ニ於テ初ノヨリ交易ノ事ヲ准  
 許セス或ハ之ヲ准許スルモ既ニ交易セシ後ニ到リ  
 テ彼此ノ權利ヲ消除シテ恰モ交易ヲ爲サ、ル前ノ



如ク處分スヘキモノアリ蓋シ此等ノ交易ハ帝ニソ  
ノ利益アラサル而已ナラス必ス彼此ノ一人或ハ人  
民一般ノ損害ト爲レハ固ヨリ此ノ如ク處分セサル  
可カラス今之カ因由ヲ尋ヌルニ九項アリ即チ左ノ  
如シ

第一 隠瞞

第二 欺詐

第三 強迫

第四 賄囑

第五 法律上ノ義務ヲ誤認スル

第六 物價ヲ誤認スル

第七 其資格ヲ有セサルト即チ未成丁ノ人及ヒ

癡狂癡呆ノ類

第八 交易ニ就テ衆庶ノ損害トナルヘキ物件

第九 讓主ニ其權利アラサル時

第一 隠瞞 買主ノ物件ヲ得ルニ方テ其價值若シ  
當初希望セシ所ノ價值ニ及ハス又ソノ得ル所ノ品  
位ハ之ヲ與ヘシ所ノ品位ニ劣ルトアレハ其人ハ交  
易ノ爲メニ利益ヲ得サルノミナラス却テ失望ノ苦  
ヲ蒙リ大ニ損失ヲ招カサルナシ然ルニ賣主ニ於



テハ之ニ反シテ大ニ利益ヲ得ルカ如キモ而モ其物  
ヲ得タル所ノ樂意ハ決シテ買主カ物ヲ失フタル憂  
苦ニ敵セサル固ヨリ言ヲ待タサル所ナリ譬ヘハ我  
レ十金ヲ以テ一馬ヲ買ハシニ其馬良健ナルキハ則  
チ其物其價ニ相當スルモ若シ其性怯弱ニシテ僅カ  
ニ二金ノ價有ルカ如キハ賣主ニ八金ノ贏利アルモ  
我レハ八金ノ損耗アリ茲ニ於テ彼此ノ利害ノ輕重  
ヲ比較スルキハ交易ハ決シテ樂意ヲ主スヘキモノ  
ニ非サルヲ知ルヘキナリ  
問フ若シ之ヲ交易スルノ時ニ當テ賣主モ亦實ニ其

價ノ賤劣ナルヲ知ラサルニ於テハ直ニ之ヲ消除  
スルノ理ナカル可シ然ルヲ再ヒ之ヲ賣主ニ返還シ  
テソノ損失ト爲サシムルハ頗ル非理ニ属スルモノ  
ナラスヤ又此交易ニ由テ所生ノ損耗ハ必ス彼此ノ  
間一人ノ蒙ムル當キ所ナルニ強テ之ヲ賣主ニ返還  
シテ其一人ノ損耗ニ歸セシムルハ果シテ何ノ故ソ  
且ツ賣主若シ其物ノ其價ニ當ラサルノ事情ヲ前知  
スレハ買主ノ請問ヲ俟タスシテ之ヲ報知スルヲ以  
テ其義務トスヘキヤ否ナ買主ニ於テ預シメ其物ヲ  
檢査シテ己カ失錯ヲ免ル、ヲ以テ義務トスヘキニ



非サルハナキヤ

夫レ隱瞞ヨリ成ル所ノ交易ヲ消除スルニ當テ常ニ  
疑問ヲ起スヘキ所以ノモノニ項有リ曰ク賣主ハ實  
ニ其物ノ虧缺アルヲ前知セシヤ曰ク之ヲ賣ルニ  
當テ賣主ハ當ニ其旨ヲ買主ニ報知スヘキノ情實ア  
リシヤ否ヤ是レナリ今此二項ノ問題ヲ鮮晰セント  
欲セハ固ヨリ穿鑿考究ノカヲ費スノ上ニアラスン  
ハ能ハサルノミナラス之ヲ爲スニ又許多ノ節目ア  
リテソノ事情一樣ナラサレハ其物件ノ各異ナルニ  
依リ事ニ從ヒ物ニ應シテ變通取捨ヲ要セサルヲ得

ス是レ此一編ノ能ク整クス處ニアラサルヲ以テ茲  
ニ一定ノ回答ヲ與ヘ難シ

第二 欺詐ハ此項ハ前項ニ比スレハ其事更ニ簡易  
明白ナリ蓋シ欺詐ノ罪ハ盜賊ト相伯仲スルヲ以テ  
苟モ法律ノ能ク之ヲ防キ得ルノ間ハ斷シテ欺詐ニ  
依テ物ヲ得ルヲ准許スヘカラス○譬ヘハ買主ノ  
此馬ハ怯弱ナルヤト問フニ當テ賣主ハ其然ルヲ知  
リテ故ラニ良健ナリト答ヘテ之ヲ賣ルアルモ其欺  
詐ニ任シテ法律ノ其罪ヲ問フヲナキハ恰モ罪惡  
ヲ賞スルノ理ニ當リ加フルニ買主ノ苦ハ賣主ノ樂



ヨリモ更ニ著大ナルモノ有ルニ由テ此等ノ交易ヲ  
消除スルノ因由ハ確乎タル基礎ヨリ成ルヲ知ル  
可キナリ

第三 強迫ニ於ルモ亦然リトス茲ニ僅ニ二金ニ値  
ル馬ヲ所有スル者アリ若シ暴力ニ伏リテ買主ヲ脅  
迫シテ之ヲ十金ニ買ハシメン耶買主ノ原ト之ヲ買  
取セント欲セシハ僅ニ二金ニ過キサルヲ以テ賣主  
カ贏ル所ノ八金ハ即チ賣主ノ罪惡ニ因テ得タルノ  
利益ニ属スルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ其初メ  
買主カ賣主ノ暴力ニ脅カサルニ當テヤ若シ之ヲ

肯セサレハ其受クヘキノ苦害ハ更ニ著大ナルヲ以  
テ寧ロハ金ノ損耗ヲナスヲ却テ利益タルニ如カサ  
ルモ然モ買主ノ此已ムヲ得サルニ出タルノ利益ト  
罪人ノ得ル所ノ利益トヲ一併シテ尚ホ其罪惡ノ大  
害ヲ償フニ足ラサルハ固ヨリ言ヲ俟タサル所ナリ  
第四 價ヲ以テ人ノ服役ヲ購ヒ之ニ因テ罪惡ヲ犯  
サシムル之ヲ賄囑ト謂フ譬ヘハ人ニ金ヲ與ヘテ偽  
誓ヲ立テシムルノ類ニシテ之ヲ囑托スルモノモ囑  
托セララル、モノモ齊シク其利益ヲ得ヘシト雖モ固  
ヨリ此利益ヲ以テ其罪惡ヲ掩フニ足ラサルモノナ



民法論綱  
卷之四

信  
非  
木

リ  
故ニ法律ノ欺詐強迫賄囑ノ如キ事項ニ於ケルヤ唯  
ニ其交易ヲ消除スルノミヲ以テ其責ヲ塞クトセス  
必スヤ刑罰ヲ用ヒテ以テ其罪惡ヲ懲治セサル可カ  
ラス  
第五 法律上ノ義務ヲ誤認スルヲ、譬ハハ賣主ハ  
其馬ヲ以テ己ニ從者ノ賣ル所ト信シ之ヲ買主ニ與  
ヘルノ後始テ其然ラサルヲ了知シ或ハ人アリテ政  
府ノ命ヲ奉セリト稱シ賣主ヲシテ其馬ヲ將テ國家  
ノ用ニ供セシムルニ賣主ハ之ヲ信シテ直ニ其馬ヲ

獻セシニ政府ニ於テハ曾テ其事ナキカ如シ略シテ  
之ヲ言ハハ賣主ハ法律上ノ義務トシテ之ヲ賣ラサ  
ルヲ得スト信セシニ嘗テ實ニ其義務タルモノアラ  
サルヲ以テ若シソノ過誤ヲ看破セシ後ニ於テモ猶  
ホ其授受ヲ許シテ之ヲ消除セサルハ買主ハ意外  
ノ利益ヲ得テ賣主ハ意外ノ損耗ヲ致サン此ノ如キ  
モノハソノ得ル所ノ利益ソノ失フ所ノ憂苦ニ敵セ  
サルノミナラス又頗ル強迫ト其情ヲ全フスルモノ  
アリ故ニ事後之ヲ平反セサル可ラス  
第六 物價ヲ誤認スルヲ、物品ヲ讓與スルニ當テ

民法論綱  
卷之四

三  
可  
大  
反



曾テ其價ヲ増スヘキノ情實アルヲ知ラス業已ニ他人ノ手ニ入ルノ後始メテ其過誤ナルヲ知レハ必スソノ損耗ヲ悔恨セサルナカラシ此ノ如キモノハ以テ當初ノ交易ヲ消除スルノ因由トスヘキヤ、倘シ一定ノ制限ヲ立ルヲ死ク縦マ、ニ當初ノ交易ヲ消除スルヲ許サハ前ノ所有主、曾テ其情實ヲ知ラサルヲ以テ辭柄トシ自由ニ既定ノ交易ヲ消除スルヲ得レハ新ノ所有主ハ假令物件ヲ得ルモノノ全ク已カ所有トナルヲ保信ス可ラサレハ安固ノ心常ニ堅牢ナラサルヨリ遂ニ交易衰微ノ兆ヲ現スルニ至

ラン又之ニ反シテ誤テ金剛石ヲ以テ一塊ノ水晶ト認メ之ヲ賣却スルノ後始メテ其寶石タルヲ知ルト雖モ一タヒ其手ヲ離ル、寸ハ之ヲ回復スルノ方術無トセハ其人ノ悔恨悲嘆ハ實ニ幾何ソヤ殆ント名状ス可ラサルモノアルヘシ曰ク此二項ニ就テ彼此ノ利害ヲ平均シテ能ク偏倚ナカラシメント欲セハ曲ニ交易ノ情實ヲ咀嚼シ明カニ物件ノ異同ヲ審勘シテ以テ變通取捨スル所アルヲ要スルカ故ニ須ラク賣主ノ其物ヲ知ラサルハ果シテ怠慢ニ起ルニ非ラサルヤヲ訊查シ假令其交易ヲ消除スルニ至ルア

民法論綱 卷之四 世一 何氏藏板



ルモカノテ既定ノ交易ヲ保存シ敢テ買主ノ安固ヲ  
 害セサルヲ以テ要領トナスヘシ  
 然ノミナラス縦令一點ノ過誤ナキ交易ト雖モ終ニ  
 買主ノ不利ト爲ルモ、往々少カラス譬ハ旅行セン  
 カ爲ノニ一馬ヲ買ヒ而メ后其事ヲ止メテ發途セサ  
 ルカ或ハ發途スルニ方テ其馬疾ヲ得テ斃レ或ハ路  
 上馬ヨリ落テ其股ヲ折リ或ハ其馬ニ騎リテ路人ヲ  
 劫掠シ或ハ當初之ヲ買ハント欲セシハ特ニ一時ノ  
 熱心ニシテ日ナラス其情冷淡トナリ己ムヲ得ス  
 其價ヲ損シテ之ヲ他人ニ賣與スルカ如キ凡テ何等

ノ物件ニ拘ラス一定ノ價ヲ以テ買ヒ得シモノ其主  
 人若クハ他人ノ用ニ供セサルノミナラス之カ爲メ  
 ニ或ハ苦難トナリ或ハ危害トナルノ情實ハ無慮千  
 萬ニシテ枚擧ニ暇マアラサル可シ此ノ如キモノハ  
 夫ノ各個ノ交易ハ利益ヲ含ムモノナリトノ法訣ノ  
 範圍ニ入ル可ラサルモノナル可シ又此等ノ情實モ  
 自餘ノ事項ニ於ケルカ如ク交易ヲ消除スルノ一因  
 由トナスヘキニアラサルヤ  
 曰ク然ラス此等ノ不利ハ全ク一時ノ邂逅ニ出テ而  
 ノ其虧缺ハ已ニ交易ヲ遂クルノ後ニ在テ生スルモ



ノナリ蓋シ交易ノ定則ハソノ得ル所ノ物果シテ其價ニ値ルヤ否ニ在ルノミ故ニ尋常有用ナル交易ノ利益ヲ總計スルニ其分量ハ大ニ不利ナル交易ノ損害ヲ總計セシヨリモ超過スルモノニシテ今日ノ文明社會ハ昔時ノ野蠻習ヲ脱セサル時ヨリ更ニ幾層ノ富饒ヲ増シタルヲ見テ其貿易ノ利ハ其損ヨリモ浩大ナルヲ知ル可シ是レ一切交易授受ノ保護維持セサルヘカラサル所以ナリ然ルニ若シ偶然ノ損失アルカ爲メニ空シク已定ノ交易ヲ消除スルハ其作用ハ一切ノ交易ヲ禁止スルモノト謂ハサルヲ

得ス何ソヤ各人預シノ未来ノ事變ヲ慮リ能ハス又其カノ得テ奈何トモスル處ニ非ラサルヲ以テ若シ事後ニ消除セララルト思フハ遂ニ一人ノ賣人ナク一人ノ買人無キニ至ルハ必然ナルコ以テナリ  
第七 時トシテ制法者ハ契約ヨリ所生ノ弊害ヲ慮ルニ由リテ預メ交易ヲ禁止スルノ事情アリ即チ諸國ノ法律ニ於テ紈袴ノ子弟ニ交易ヲ爲スノ資格ヲ有セシメス又之ヲ爲スモ其効用ナシトスルカ如キモノニシテ乃チ預メ紈袴ノ子弟ハ一己ノ事務ヲ理ムルニ堪ヘス從テ其契約ハ害アリテ益ナキヲ人



民法論綱 卷之四 信託 附錄

民ニ公告シ以テ正義ノ手ニ頼リテ之ヲ檢束スルヲ了知セシムルニ在リ  
年齢未タ熟セサルモノト失心ノ人ハ其状態頗ル相類セルヲ以テ此二者ニ契約ヲ結フヘキノ資格ヲ與ヘサルハ各國ノ法律皆ナ然ラサルハナク而シテ其相類スル所以ノモノハ幼者ハ(稍)專意ヲ以テ其期限ヲ斷定セシモノト雖モ一時ノ制禁ニシテ其期ヲ過クレハ則チ其資格ヲ得ルモ狂者ハ更ニ其期限ヲ定メス或ハ畢生ニ涉ルモノアリテ其理ハ俱ニ前項ノ趣意外ナラス蓋シ幼者ト狂者ハ其因由相同シカラス

ト雖モソノ事理ニ通セサルヨリ粗忽怠慢ニ陥リ濫費浪用スルノ状態ニ至テハ必ス一樣ナルヲ以テ衆目ノ注視スル所皆ナ此點ニ在ラサル無ケレハ茲ニ其確証ヲ出スヲ要セサルナリ  
此等ノ状態ニ應シテ禁止ノ法律ヲ設立スルハ特ニ緊用ノ物件ニ在テノミ然ルヘシ若シ日用ノ雜品ニ至ルマテ之ヲ施行スル時ハ正シク窮民ヲ罰シテ饑渴ニ斃レシムルニ異ナラサルニ至ラン  
第八 時トシテハ後來衆庶ノ公害タランヲ預慮シテ一定ノ交易ヲ禁止スルノ法律ヲ設定スルモノ

民法論綱 卷之四 信託 附錄 世四 可



アリ

譬へハ我カ國民ノ一人邊疆ニ於テ一區ノ庄田ヲ所  
有セシニ若シ之ヲ以テ隣國ノ所有トナサシムル片  
ハ或ハ我國ヲ覬覦スル隱謀ノ根據ト爲リ或ハ敵國  
ノ利益ヲ資助スル所トナリテ一國ノ大害ヲ生スル  
モ料ルヘカラス此ノ如キモノハ敢テ所有主ノ可否  
ヲ俟タス汎ク人民ノ利害ヲ預慮シテ之カ授受買賣  
ヲ禁止シ以テ公害ヲ防カサル可ラス

**原註**各國ノ預慮曾テ此點ニ至ラスト雖モ往々  
外國人ニ不動産ヲ所有セシメサルノ國法ヲ制

定シ間接ニ於テ此大害ヲ免レシモノ少ナカラ  
ス然レ氏之ヲ禁止スルノ理趣ハ纔カニ本文ノ  
事情ニ過キササルヲ以テ概シテ外國人ニ不動産  
ヲ所有セシメサルハ防患ニ過キルモノト謂ハ  
サル可カラス何トナレハ外國人ノ我國ニ於テ  
不動産ヲ購買セント欲スルハ其心既ニ我國ニ  
皈向シテ愛慕ノ心情ヲ表示シ之ニ加フルニ品  
行ノ端正ナルヲ以テ其抵當トスルカ故ニ理財  
ノ一事ノミニ就テ之ヲ論スルモ亦國家ノ公益  
ニアラサルハ無シ



有毒ナル藥材ノ賣買ヲ制限スル所以モ其理上文ニ  
 同シク且銃劔ノ如キ不仁ノ器ニ於ルモ亦然ラサル  
 ハナシ伊太利ニ於テハ尋常ノ爭論ヨリシテ小カヲ  
以テ人ヲ殺スヲアリ故ニ彼國ニテハ之ヲ帶  
フルヲ禁  
スト云フ  
 一種ノ物件ヲ輸入シ或ハ之ヲ賣買スルヲ禁止ス  
 ルモノアリ其法制ニハ固ヨリ善惡ノ別アリト雖モ  
 其理趣ニ至リテハ一モ茲ニ出テスンハアラスヒル  
ト曰ク劇烈ナル飲液ノ賣買ヲ  
禁止スル法律モ此項ニ屬ス  
此等ノ場合ニ方テ此契約ハ其初メヨリ効用ナシト  
 法訣ヲ用ユルノ慣習アリ試ニ律書ヲ繕キテ一讀

セヨ曖昧ノ語言紙幅ニ滿テ而メ法律士カスノ契約  
 ノ害多クシテ利少キ因由ヲ拈出シ能ハサルニ因テ  
 紛々トシテ妄謬畧ニ陥ルヲ看破スヘシ  
 此契約ハ其初メヨリ効用ナシトノ法訣ヲ存用セン  
 ト欲セハ必ス其契約ヲ破毀シ其効用ヲ消滅シテ其  
 踪跡ヲ根絶セサル可ラス誰カ知ランヤ人事ハ千差  
 萬別ニシテ其中單ニ既定ノ契約ヲ改良シ或ハ賠償  
 ノ法ニ依リテ其不平ヲ調停シテ弊害無キノ案件ニ  
 乏シカラサルヲ  
 契約ノ斷シテ其初メヨリ効用ナキモノニ非ラス又

民法論綱 卷之四 廿六 可成 藤村



初ヨリ自ラ効用アルモノニ非ラス唯其効用ノ有無ヲ決定スルハ特ニ法律ノ作用ニ在ルノミ然レ民法律ニ於テ之ヲ許容シ或ハ之ヲ否ムニ當テ亦其理趣ナカラサルヲ得ス嗚呼今日生理學ニ於テハ已ニ原因不定ノ事ヲ除キ去リテ專ラ實果ヲ旨トセリ願クハ法律學ニ於テモ此ノ如ク曖昧ノ語ニ其蹤ヲ絶ツノ日アラシムヲ曰ク何ヲカ之ヲ謂フ曰ク其初メヨリ効用ナシトノ一句是レナリ

第三章 土地ヲ讓與スルノ障礙

讓與ノ權ハ有利的ナリト謂フハ即チ之カ妨碍タル

ヘキノ制規ハ一般ニ有害的ナリト謂フノ反語也此有害的ノ制規ハ獨リ不動産ニ於テノミ之ヲ施行スル所ニシテ即チ英國ノ律士カ所謂遺傳ノ基業或ハ不應讓ノ因由アル資産是レナリ抑物件授受ノ際ニ當テハ其自由ニ任セテ敢テ之ヲ束縛ス可ラサルノ理趣ハ已ニ前章論セシカ如キモ就中土地讓與ノ權ニ至テハ斷シテ之ヲ其人ノ自由ニ任セサル可ラサルノ持理アリ知ラスンハアル可ラス

第一、夫レ所有主カ其所有ノ土地ヲ放棄セント欲スルハ縱令之ヲ保持スルモ其利益ニアラサルヲ表示ス



ルノ兆候タレハ所有主ハ必ス之ニ修良ノ工夫ヲ施  
スノ方策ナキカ或ハ之ヲ希望セサルカ此二端ノ外  
ニ出テサルハ無ク唯現在ノ需要ヲ充サンカ爲メニ  
己ヲ得スシテ将来ノ價值ヲ減セサルヲ得サルモノ  
ナリ之ニ反シテソノ土地ヲ所有セント欲スル人ハ  
帝ニ之ヲ怠荒セサルノミナラス又更ニ其價值ヲ増  
加セシムルノ意志方策ヲ具有スルハ必然ナリ  
土地ノ修良ニ供スル所ノ資本ヲ遷シテ之ヲ工商ノ  
事業ニ換用シ得ルハ固ヨリ當然ノ理ノ存スル所ナ  
レハ一私人ノ上ニ就テ之ヲ論スル時ハ之ヲ土地ノ

費ニ當ルモ之ヲ工商ノ業ニ供スルモ齊シク其利益  
ヲ得テ敢テ徑庭差異ナカルヘシト雖モ國家ノ理財  
上ニ就テ觀察ヲ下ス片ハ其相同シカラサルヤ實ニ  
一視ス可ラサルモノアリ是レ農事ニ用ユルモノハ  
即チ不動産ニ属スルヲ以テ其資本確定シテ動カス  
工商ニ用ユルモノハ随意ニ移動シ得レハ其資本常  
ニ流轉シテ定ラサルカ故ナリ  
第二 不動産ヲ抵當トスル片ハ以テ有産ノ資本ヲ  
借用シ得ヘキカ故ニ其一部ノ沽價ヲ以テ他ノ一部  
ヲ修良スルノ費用ニ供スヘキモ若シ此抵當法ナカ



民法論綱 卷之四 何氏藏本

リセハ遂ニ土地ヲシテ荒蕪ニ委棄スルノ外アル可  
カラス然レハ則チ自由ニ土地ヲ讓與スルコトヲ妨碍  
スルハ殆トソノ沽價ノ額ニ齊シキ所ノ有産ノ資本  
ヲ減シテ之ニ相應シタル修良ノ事ヲ掣肘スルノ理  
ナレハ今物件ヲ以テ抵當ノ用ニ供セント欲セハ必  
ス之ヲ讓與スルノ權利ナカル可カラサルナリ  
論者曰ク此章ニ説ク所ハ特ニ借債ノ一事ニ止リテ  
更ニ之カ爲メ新ニ資本ヲ造爲スルコト無シ然ルニ此  
資本ハ貸主ノ權内ニ在ルモ之ヲ以テ土地ノ修良ニ  
比シテ相遜ラサル利益ノ目途ヲ達ス可シト誠ニ然

リ然レハ資本ハ流通ノ道益開クニ從テ彌國內ニ  
輻輳スルモノナレハ彼外國輸入ノ如キハ乃チ内  
國ニ所生ノ資本ノ加額ニシテ終ニ一國ノ公富ニ歸  
セサルモノナシ察セスンハアル可ラス  
抑讓與ノ權ヲ束縛スルハ經濟學ノ真理確論ヲ以テ  
之ヲ論破スルモ然モ國トシテ之ヲ行ハサルハ無シ  
固ヨリ政府ノ更ニ農商ノ利益ヲ通知スルニ從テ漸  
ニ之ニ解弛スルハ理ノ應サニ然ルヘキ所以ナルモ  
猶ホ三件ノ原因アリテ之ヲ維持スル所ノ作用ト爲  
レリ

民法論綱 卷之四 廿九 可氏藏本



第一ハ子弟ノ浪費ヲ防カント欲スル是レナリ○此  
 患害ヲ防カンカ爲ノニ併セテ土地ノ讓與ヲ妨クル  
 ハ敢テ其要ヲ得ル者ニアラスト謂フヘシ何トナレ  
 ハ若シ其價ヲ一定シテ之ヲ純禱子弟ノ專斷ニ任セ  
 サル片ハ直チニ其害ヲ防キ得ヘキカ故ニ概シテ之  
 ヲ言ヘハ此害ヲ防クノ良策ハ乃チ一定ノ制限ヲ立  
 ルニ在ルノミ  
 第二ハ己カ門地ヲ矜誇シテ其子孫ヲシテ之ヲ永續  
 セシメ恰モ己カ天壽ノ盡キサルカ如ク敢テ失墜セ  
 シメサルノ虚譽ヲ貪ホルノ癡情是レナリ○夫レ己

カ所有セシ所ト同一ノ價アルモノヲ子孫ニ賜スヒ  
 未タ以テ其志ヲ滿タスニ足ラス必ス之ニ同一ノ土  
 地ヲ遺シ之ヲ無窮ニ保續セシメント欲スルノ情願  
 アリ斯ノ如ク所有權ヲ繼襲シテ動カサルハ猶ホ  
 己カ福利ヲ無窮ニ享クルカ如ク即チ人類ノ妄想ヲ  
 維持シテ變セシメサル所以ナリ  
 第三ハ權威ノ熱心ニシテ死後尚ホ人ヲ支配セント  
 欲スルモノ是レナリ○第二ノ原因ハ其志子孫ノ身  
 上ヲ眷顧スルニ在リ第三ノ原因ハ實利其真理ヲ知ルヤ否ヤヲ  
 問ハノ目途或ハ單ニ妄想ノ目途ヲ以テ寄附贈施ス

民法論綱 卷之四 何氏藏板



スル所ノ土地モ亦此原因ニ属セリトス  
 若シ此寄附物ヲシテ更ニ約束ヲ要セス又服役ヲ需  
 ノス單ニ施濟賑恤ノ一途ニ出テシムレハ則チ其舉  
 ハ純美ノ心ニ胚胎スルモノニシテ之ヲ永續スルモ  
 固ヨリ一點ノ害アルヲ見ス但カノ奸良淑慝ヲ問ハ  
 ス專ラ施濟ヲ行フニ至テハ徒ニ乞丐ノ風ヲ長シ懶  
 惰ノ人ヲ養フノ理ニ當ルヲ以テ斯ノ如キハ此寄附  
 物ノ外ヲ以テ之ヲ論セサル可ラス○之ヲ施濟ノ事  
 ニ用ヒテ最モ佳良ノ果實ヲ結フモノハ曾テ衣食ノ  
 餘裕アリシモ避ク可ラサルノ禍災ニ遭フテ今日ノ

貧窮ニ陷ル者ヲ賑恤シ彼ノ全ク政府ノ教育ヲ仰ク  
 處ノ一般ノ貧民ヨリモ更ニ深厚ノ恩惠ニ沐浴セシ  
 ムルニ在リ  
 又寺院僧侶ニ寄附シテ以テ一定ノ職務ヲ盡サシム  
 ル所ノ遺物ノ如キハ其需求スル所ノ職務ノ如何ニ  
 依リテ或ハ有用トナリ或ハ危害トナリ或ハ可モナ  
 ク不可モナキニ歸スルノミ  
 之ヲ要スルニ此等ノ寄附物即チ各私人カ親ラ國家  
 ノ主權ヲ借用シテ制定セシ處ノ特別ノ法律ハ却テ  
 其國君ヨリ直流スル所ノ公法ヨリモ之ヲ恪遵シテ



敢テ違背スルモノ無キハ實ニ思議ス可ラサルモノ  
 アリ故ニ制法者此不可思議ノ法律ヲ改革シテ人民  
 ノ自由ヲ束縛セント欲スルハ帝ニ至愚不義ノ譏ヲ  
 招クノミナラス斷シテ其効用アラサルヘシ是レ最  
 モ賤劣ナル人民ト雖モ此特權ヲ專有スルヲ以テ一  
 人ノ敢テ之ヲ攻撃スルモノアラサレハナリ  
 夫レ教會寺院ニ寄附スル所ノ土地ハ漸次ニ衰頹ノ  
 色ヲ顯ハシテ其價值ヲ減スルニ至ルハ必然ナリ何  
 トナレハ相續人アルモ原トヨリ子孫ノ父祖ニ於ル  
 カ如ク骨肉ノ愛アルニアラス唯一時之ヲ紹續スル

ニ止マルヲ以テ專ラ聚斂拮据ヲ事トシ敢テ修良ノ  
 エ夫ヲ加ヘサルノミナラス又其人老耄スルニ從テ  
 益其弊害多キヲ覺ユ可シ○此等ノ弊害ハ時トシテ  
 亦免ル可カラサル所ト雖モ茲ニ教會ノ爲メニ公平  
 ノ言ヲ述ヘテ之ヲ謂フハ則チ教會ノ人ハ節儉謹  
 約ナル者居多ニシテ或ハ其地位ニ依リテ貪欲ノ念  
 ヲ誘掖スルヲアルモ敢テ驕奢濫費ノ妄動ニアラス  
 若シ又私欲ヲ是レ逞クセント欲スルノ原因アルニ  
 於テハ固ヨリ教會ノ清規アリテ嚴ニ教門ヲ守護シ  
 直ニ之ヲ撲滅セサルナシ



民法論綱 卷之四 何日 痛本

土地讓與ノ事ニ就テハ道路、寺院、市場等ノ如キ一般ノ公用ニ屬スル所ノ物件ニ論及スルヲ要セス此等ハ唯其用ニ適シ其事ヲ缺カサルカ爲メニ其時ノ情勢ニ從テ之ヲ變改スルノ外敢テ一定ノ期限ヲ立テスシテ之ヲ悠久ニ保續ヤシムレニ在リ

第三回 其他ノ所有法 紹續

問フ一私人ノ死後ニ於テ其資産ヲ處置スルノ法如何  
曰ク制法者ノ方寸中ニハ必ス三件ノ正鵠トスハキモノナカルハカラス即チ將ニ成長スル所ノ稚雛ノ

爲メニ生計ヲ備フル一ナリ失望ノ苦ヲ防クニナリ  
貧富ノ不平ヲ減スルニナリ  
夫レ人ハ孤立獨棲ノ生物ニアラサレハ必ス骨肉ノ親、結髮ノ情若シクハ友誼、服屬ノ彞倫ニ依テ休戚相關スル所ノ類族アラサルハナク其境遇ノ不同ニ從テ多少ノ差異アリト雖モ概シテ其一人ノ庇蔭(即チ法律上ニ於テ全ク其人ノ所有ニ屬スル財產)ニ依賴シ其福利ヲ分享スルカ故ニ其人ノ福利ハ乃チ此數人ノ族類カ賴テ以テ其生計ヲ仰ク所ノ淵源タレハ若シ其人死スル時ハ此數人ハ忽チ仰テ以テ衣食ヲ

民法論綱 卷之四 何日 痛本



資ル所ヲ失フカ故ニ今之ヲシテ患難ノ犠牲タラシ  
 ノサラント欲セハ必ス先ツ平日受用スル所ノ福利  
 ノ厚薄深淺ヲ測量セサル可ラス然レ此等ノ事實  
 ヲ識別スルハ固ヨリ直接ノ證據ニ依テ之ヲ決定ス  
 ルヲ能ハス強テ之ヲ識別セント欲セハ必ス無數ノ  
 規矩ヲ制シ無數ノ葛藤ヲ生シソノ混雜擾亂ニ勝ユ  
 可ラサルモノアラン故ニ止ムヲ得ス其大体ヲ忖度  
 シ之ヲ以テ決斷ヲ資ル所ノ根基ト見爲シ彼ノ生存  
 スル各人カ死者ノ所有物ヲ分享スハキ股分ノ多少  
 ハ即チ死者ト生存者トノ間ニ存スル所ノ愛情ノ厚

薄ヲ忖度シ其愛情厚薄ハ其戚屬ノ親疎ヲ忖度シテ  
 其レカ標準ヲ定ムヘキモノナリ  
 若シ戚屬ノ親疎ノミヲ以テ決斷ヲ資ルノ根基ト爲  
 スコト得レハ紹續ノ法律ハ極ノテ簡易ナルモノト  
 ス即チ我ト其人ト直接シテ其間ニ餘人ヲ容レサル  
 モノ之ヲ一等親ト稱ス妻、夫、父、母、子、女ノ如キ是レナ  
 リ我ト其人ノ間ニ一個ノ餘人即チ一等親ヲ容ル、  
 モノ之ヲ二等親ト稱ス祖父母、兄弟、姊妹及ヒ孫ノ如  
 キ是レナリ我ト其人ノ間ニ一等親ト二等親ノ二戚  
 ヲ容ル、モノ之ヲ三等親ト稱ス曾祖父母、曾孫、伯叔



父母及ヒ甥姪ノ如キ是レナリ  
 簡明ナルト齊正ナルトニ於テハ此倫序ヲ以テ完全  
 至備ナリトスルモ然モ戚族ノ親疎ノミヲ以テ愛情  
 ノ深淺ヲ測ルノ確證ト定ムヘカラス必ス又之ヲ以  
 テ將ニ成長スル所ノ幼稚者ノ需要ヲ充スヘキノ要  
 點ト爲スヲ以テ制法者カ目的トスル所ノ政治及ヒ  
 道義ノ標準ト爲スヘキカ故ニ族譜ノ倫序ハ姑ラク之  
 ヲ置キ試ニ實利ヲ根基トシテ紹續ノ系統ヲ陳述セ  
 レニ其系統ハ宜シク尊系旁系ノ近キモノヨリモ寧  
 口卑系ノ遠キモノニ及ス可クシテ乃チ他ノ步驟ニ

由ラサレハ尊系ニ達シ能ハサル所ノ諸人ヲ超乘シ  
 テ各父母ノ子孫ニ之ヲ紹續セシムル見レナリ  
 然リト雖モ此規則ノ基礎タル所ノ愛情或ハ需要ヲ  
 測量スルニ當テ往々實際ノ肯綮ニ中タラサルヨリ  
 其規則アリト雖モ其目的ヲ達シ能ハサルヲアリ故  
 ニ之カ爲メニ遺囑ヲ爲スノ權利ヲ制シテ以テ法律  
 規則ノ缺典ヲ裨補スルヲ得セシム是レ此權利ヲ制  
 定セシ所以ナリ  
 以上所論ハ大体ノ綱領ニシテ彼ノ數人ノ間ニ一人  
 ノ遺物ヲ分配スルカ如キ之ヲ判決スルノ節目ハ何



等ノ措置ヲ用ユハキカ  
 茲ニ法律ノ草案ヲ草シ以テ縷々ノ議論ニ代用セン  
 第一條 男女ノ別ヲ立テスシテ男子ニ属スヘキ物  
 ハ齊シク之ヲ女子ニ属セシム男子ノ得分ハ常ニ女  
 子ノ得分ニ過キルヲ得ス  
 其理 亦同一ノ福利ヲ惠ム所以ニシテ若シ己ムヲ  
 得ス區別ヲ立ツルアレハ寧ロ柔者即チ女子ニ偏倚  
 シテ之ヲ分配セサル可カラス是レ女子ハ男子ニ比  
 スレハ需要居多ニシテ而モ物ヲ得ルノ道少ク假令  
 之アラシムルモ之ヲ得ルノ器量ニ乏シキヲ以テ固

ヨリ男子ト一様ニ之ヲ處分スルヲ能ハス而ルヲ况  
 シヤ法律ハ剛者即チ男子ノ制定スル所ナレハ剛者  
 ハ當ニ柔者ニ先ツ可キモノニ於テオヤ  
 第二條 夫ノ死後ニ於テハ寡婦ニ其共有セル財産  
 ノ半數ヲ所持セシム可シ但シ婚姻ノ契約ニ依リテ  
 他ニ約束アルモノハ此限ニアラス  
 第三條 自餘ノ半數ヲ子女ノ數ニ應シテ等シク之  
 ヲ分配スヘシ  
 其理 第一、父ノ慈愛ノ同一ナルニ在リ、第二、子女  
 ノ分配ノ同一ナルニ在リ、第三、需要ノ同一ナルニ

民法論綱  
 卷之四  
 可成稿



在リ、第四父子ノ情實ノ同一ナルヲ推察スルニ在

リ、年齢性情才力ニ等差アルカ爲ノ其需要ニ一定ノ差  
異ヲ生スヘシト雖モ法律ニ於テ之ヲ酌量スル能ハ  
ス乃チ父タル者ニ遺囑ノ權ヲ與ヘテ以テ之ヲ判定  
セシムルヲ緊要ナリトス

第四條 若シ子其父ニ先チテ死シ而シテ其子女即チ  
ヲ遺スルハ其子父ニ先ツテ死ハ得分ノ應ニ之ヲ其  
子女孫ニ分配シ若シ其子女孫モ亦没スルハ之ヲ  
又其子女曾ニ分配シ曾孫玄孫ニ至ルマテ漸次ニ卑

系ヲ沿下シテ敢テ止マル所ナキヲ要ス

考案 枝系ニ由ラスシテ根系ニ由リテ分配スルニ  
二條ノ道理アリ 第一理ハ失望ノ苦ヲ防カンカ爲  
ノナリ○夫レ伯兄ノ得分ノ季弟ノ生スルニ從テ相  
減スルハ固ヨリ自然ノ事情ニシテ敢テ伯兄タルモ  
ノ、希望ヲ害スルニアラサルモ然モ兄弟ノ一人已  
ニ其才力ニ倚テ自ラ業務ヲ經營シ得ル頃口ニ至テ  
ハ父ノ才力ハ殆ント罄キ果テルニ垂タルハ其常ナ  
ルヲ以テ此時ニ當テ兄弟タルモノ各其得分ノ已ニ  
減縮ノ極點ニ達シテ再ヒ更ニ減縮スル無シト想像

民法論綱 卷之四 何日痛板



セザル無カルヘシ然ルニ若シ各個ノ少孫兄弟ノ生ル子女  
 一ニ因テ兄弟ノ生レルト一樣ノ減縮ヲ蒙ムラシム  
 ル片ハ終始一定スルヲ得ス從テ其終身ノ方向ヲ定  
 ムヘキノ基礎ヲ得サルニ至ラン  
 其第二理ハ孫ハ其死シタル父ノ財産ヲ以テ直接ノ  
 資本ト為スヲ得ヘク又祖父傳來ノ遺物ヲ分有スル  
 ノ慣習アリテ之ヲ父ノ勤業ノ資本ニ加用スヘク又  
 其母及ヒ他ノ親族ノ物件ニシテ他ノ孫從兄ノ得サ  
 ルモノヲモ所有スルヲ得ヘシ  
 第五條 若シ子孫ナギ片ハ其財産ハ父母ニ歸シテ

其共有ニ屬スヘシ  
 考案 子孫ヲシテ他人ニ先タシムルハ何ノ理ソ  
 第一、愛情ノ他人ニ勝ルヲ以テナリ 之ニ反セシ所  
 ノ措置ハ慈愛ノ情ニ適セサルモノト謂フ可シ是レ  
 我カ依附スル所ノ人ヨリモ寧口我ニ依附スル所ノ  
 人ヲ親愛シ人ニ治ノラル、ヨリモ寧口人ヲ治ムル  
 ヲ喜フハ人情ナルヲ以テナリ 第二、需要ノ他人  
 ヨリモ急須ナルヲ以テナリ子女ハ我カ死後ニ於テ  
 我ニ代ルモノアラサレハ驟カニ生活ノ道ヲ失フ可  
 ク而ノ父母ハ既ニ我レニ先ツテ生活セシカ故ニ假

民法論綱 卷之四 何日



令我レナキモ敢テ其生計ヲ失フコトナケレハナリ  
 紹續ノ權ハ直ニ兄弟姉妹ニ赴カスシテ先ツ父母ニ  
 赴クハ何ノ理ソ 第一、父母ハ兄弟姉妹ヨリモ戚屬  
 更ニ親密ナルカ故ニ愛情モ亦從テ深厚ナルヘシト  
 ノ付度ニ出ルナリ 第二、父母ニ其子女ヲ教育スル  
 ニ就テ効勞ヲ竭シ費用ヲ出シタル報償ヲ與ヘンカ  
 爲メナリ○我カ兄弟ト吾身トヲシテ親戚タラシム  
 ル所以ハ全ク同一ノ父母ニ同一ノ關涉ヲ共有スレ  
 ハナリ○我ノ兄弟ニ於ルヤ俱ニ同一ノ時間ヲ經過  
 セシ所ノ他ノ族類ニ於ルヨリモ更ニ親戚ノ情厚キ

ヲ覺エルハ何ソヤ曰ク我カ第一ノ愛情ヲ係ツ人  
 ニ俱ニ親密ナルヲ以テナリ且我レハ吾カ兄弟ニ於  
 テ或ハ其恩惠ヲ蒙ムラサルコト有ルモ父母ニ至テハ  
 各事其慈育ニ頼ラサルハ無シ○是故ニ我カ子女ノ  
 如キ愛情最モ切ナルモノ其間ニ介立セサルノ時ハ  
 兄弟ヲ置キテ先ツ父母ノ恩ヲ報償セサル可カラズ  
 第六條 若シ父母ノ中一人死セルハ其死セル一  
 人ノ得令ヲ其子孫ニ傳フルコトハ猶ホ其子ノ死シタ  
 ルハ其孫ニ傳フルト正ニ一般ナルヲ要ス  
 考案 貧家ニ至テハ常用家具ノ外別ニ財産ナルモ

民法論綱 卷之四 何氏藏板



ノアラサレハ盡ク之ヲ父母ノ生存セルモノニ移授  
 シ以テ子女ヲ扶持スル所ノ資本ト為サシム可シ○  
 然ラスシテ之ヲ公賣ニ付スル寸ハ其費用ノ為ノニ  
 却テ生存者ノ損失ヲ釀シ假令之ヲ數人ノ親族ニ分  
 配スルモソノ得分甚タ僅少ナルヲ以テ直ニ消費シ  
 テ資本ト為スニ足ラサルヘシ  
 第七條 若シ子孫アラサルハソノ財産ハ全ク生  
 存者ニ移授スヘシ  
 第八條 若シ父母俱ニ没セシハ之ヲ其子孫ニ分  
 配スルヲ猶ホ前條ニ掲載セシカクナルヲ要ス

第九條 然レ氏之ヲ分配スルニ當テ半血子孫ノ得  
 分ハ當ニ純血子孫ノ半額タルヲ要ス  
 其理 蓋シ愛情ノ深厚ナルヲ以テナリ 譬ヘハ純  
 血ノ兄弟ハ二層ノ親アリテ半血ノ兄弟ハ一層ノ親  
 ニ過サルカ如シ  
 第十條 若シ前條ノ戚屬アラサルハソノ財産ハ  
 國家ノ公有ニ歸スヘシ  
 第十一條 然レ氏國家ノ公有ニ歸スルハ尊系ノ  
 戚屬生存セル間年賦ノ法ヲ以テ其利足ヲ領得セシ  
 ムルノ約束アルヲ要ス

民法論綱 卷之四 何氏藏板



考案 此法律ハ其國財政ノ盈縮ニ從テ或ハ之ヲ制定スルモ或ハ之ヲ制定セサルモ妨ケ無キヲ以テ假令之ヲ制定スルモ決シテ異議ヲ容ルヘキ所ナシ○此法律ニ據レハ旁系ノ戚屬ハ全ク得分ヲ享有セサルカ爲ノニ或ハ窮乏ヲ免レサルト論スルモノアラン然レ氏是レ偶然ノ事情ニシテ以テ通則ノ基礎ト爲スニ足ラス何トナレハ旁系ノ戚屬ハ各其父祖ノ遺産アリテ以テ固有ノ財源ト爲スヘキカ故ニ之ヲ以テ希望ノ心ヲ起シ或ハ一身ヲ經營スル所ノ資本ト看做サ、レハナリ

伯叔父ノ地位ニ居ルモノト雖モ其希望ヲ甥姪ノ遺産ニ繫ク、ハ甚ク稀薄ナルカ故ニ人爲ノ法ヲ以テ其權利ヲ減殺スルモ固ヨリ苛酷ナルニアラス假令其希望心ヲ發作スルモ直チニ之ヲ抑止シ得可シ是レ伯叔父ハ敢テ父祖ト同等ノ權利ヲ得サルヲ以テナリ然レ氏若シ父祖己ニ没スルキハ或ハ伯叔父ニシテ甥姪ノ爲メニソノ父祖ノ地位ヲ代理スル、アリ此等ハ則チ變格ノ事情ニシテ特ニ制法者ノ思慮ヲ要スル所ナルヲ以テ乃チ遺囑ヲ爲スノ權利ヲ父祖ニ與ヘテ以テ之ヲ匡救スルノ一術ト爲サ、ル可



カラス而シテ又通則ノ不便ヲ避ケンカ爲メニ此ノ  
 遺囑ノ權利ヲ制定スルモ倘シ其甥姪未タ丁年ニ至  
 ラス〔即チ遺囑ヲ爲スノ資格ヲ得ス〕シテ死スルキハ  
 全ク其効用ヲ見サルヘキカ故ニ此時ニ方テ財産没  
 入ノ規則ヲ寛和ナラシモンニハ宜シク一種ノ變則  
 ヲ制定シ其資本或ハ利子ヲ以テ伯叔父ニ與ヘソノ  
 利益ト爲サシムヘシ

第十二條 遺産ヲ數人ノ承業者ニ分配スルニハ全  
 部ヲ舉テ公賣ニ付スヘシ然レモ各人協同一和スル  
 ニ於テハ其他ノ處分ニ依ルノ權利ヲ與フヘシ

考案 財産共有ノ惡弊ヲ防クハ唯此一策ノアルノ  
 ミ資産共有ノ大害タル所此法ニ據ルルハ愛好ノ價  
 アル物件ノ如キハ數人ノ承業者競フテ之ヲ希望ス  
 ルニ因リテ自ラ其價格ヲ生シテ一般ノ便利ト爲リ  
 且之ヲ得ント欲シテ一家ノ争擾ヲ生シ永久ノ不和  
 ヲ醸スノ弊ヲ防クヘシ

第十三條 公賣及分配ノ處置ヲナスノ間ハ其財産  
 ヲ舉テ之ヲ成丁男子ノ長者ニ委託シ而シ不正ノ  
 處置アルヲ防制スルカ爲メニ裁判廳ニ於テ之ヲ制  
 束スルノ權ヲ持スヘシ



考案 概スルニ女子ハ男子ニ比スレハ計算業務ニ耐ヘサルモノト雖モ若シ其性質ニ依テ女子ニシテ却テ其任ニ適當スルモノアレハ親族ノ衆望ヲ以テ之ヲ其女子ニ委託スルモ亦可ナリトス

第十四條 若シ成丁ノ男子ナキハ之ヲ年長ナル男子ノ後見人ニ委託シ而シテ裁奪ノ權ハ前條ニ於ルカ如ク之ヲ裁判廳ニ持スヘシ

第十五條 血統ノ承業者無キヨリシテ國家ノ公有ト爲ル所ノ遺産モ亦齊シク之ヲ公賣ニ付スヘシ

考案 政府ハ悉皆ノ物件ヲ處分スルヲ能ハス若シ

強テ之ヲ處分スルハ其費ハ浩繁ニシテ其利ハ僅々ニ過サレハ遂ニ其價格ヲ減スルニ至ルヘシ是レアダムスミット氏ノ經濟書ニ辨論セシ所ナリ

茲ニ陳述スル所ノ法律ハ言簡ニシテ意周ク極メテ之ヲ解知スルニ容易ナレハ敢テ詭譎騙眶ヲ誘掖シ或ハ各人各異ノ見解ヲ下スニ餘地ナカルヘシ故ニ概シテ之ヲ言ヘハ人心ノ愛情及ヒ人生ノ交際ヨリ起ル所ノ習性ニ符合スルヲ以テ必ス心術ヲ根柢トシテ而シテ事物ヲ判斷シ道理ヲ玩味スル人ノ爲メニ認許貴重セラレサルベシ



或ハ此法案ノ簡明ニ過キルヲ論駁シ或ハ法律ノ斯ク容易ナルキハ以テ一科専門ノ學術ト爲スニ足ラスト評言スルモノアラシ此輩ニハ宜シク英國ノ財産紹續ニ係ル慣習法ヲ指示ス可シ其幽蘊深奥ニ堪ヘサルニ驚キテ其不満ノ心ヲ永解スルニ至ラン試ニ他國ノ人ヲシテ英國慣習法ノ煩縟艱難ナルヲ通知セシメント欲セハ其初ノ特ニ新規ノ辭典ヲ編輯セサル能ハス然ラサレハ全編ノ意義悉ク荒謬深奥苛酷詭譎ニシテ猶ホ諷譏ノ寓言ヲ讀ムカ如ク遂ニ其要領ヲ解得スルニ由シナカラシ嗚呼公平知識

ノ榮譽ヲ得タル我カ國民ヲ羞辱スルハ慣習法ナリト謂ハサルヲ得ス

然レモ又此弊害ヲ減殺シテ別ニ至少ノ區域内ニ限ルノ方策アリ即チ遺囑ヲ爲スノ權利是レナリ蓋シ慣習法艱嶮ヲ經過スヘキハ特ニ遺囑ヲ立テサル財産ヲ紹續スル時ニ於テノミ然ルモノニシテ英國ニ遺囑ノ法律アルハ宛モ刑律ノ嚴厲ナルヲ寛和ナラシムヘキ恩赦ノ特典ト稱ス可キカ

第四回 遺囑

第一 千差萬別ナル各私人ノ情欲ハ固ヨリ法律ノ



曲サニ適應シ能ハサル所ナレハ唯法律ハ勉メテ此  
 情願ヲ達ス可キ最良ノ機ヲ得ルノ一點ニ在ルノミ  
 故ニ私人其没後已レニ依頼スル所ノ諸人ヲ處分ス  
 可キ委曲ノ情實ヲ識得シ以テ法律ノ豫シメ慮リ能  
 ハサル缺典ヲ補フ可キハ各所有主ノ任務ニシテ乃  
 テ遺囑ヲ作ルノ權利ヲ以テ未來ノ禍害ヲ禦カンカ  
 爲メ之ヲ私人ニ付托スル所ノ文契ト爲ス所以ナリ  
 第二 遺囑ヲ作ルノ權利ハ亦以テ一族固有ノ徳ヲ  
 勸メ未發ノ惡ヲ遏ムルカ爲メ私人ニ付托シタル委  
 任狀〔往々〕家主タル者此委任狀ヲ濫用シテ道理ニ背

及スルノ弊害アルモ幸ニシテ其事極メテ稀少ナル  
 ヲ以テ通則ト爲ス可ラスナルカ故ニ家族ノ利益ハ  
 各人ノ品行能ク徳誼即チ一家ノ公利ニ適スルニ在  
 リ然リ而シテ一時ノ血氣ニ依リテ偶然此正路ヲ外  
 ルハアルヲ免レスト雖モ法律ニ於テハ必ス事物ノ  
 常規ニ照シテ之ヲ措置セサル可カラサルナリ○夫  
 レ徳ハ人間社會ノ大綱ニシテ頑囂ナル父母ト雖モ  
 其子ノ美譽令聞ヲ切望スルノ至情ニ至テハ敢テ他  
 ノ善人ニ異ナルヲ無キカ故ニ苟モ品行ヲ慎ムノ心  
 アルモノハ其隱惡ノ家族ニ發露センヲ恐懼シテ



常ニ家中ニ在テハ誠實正直ノ人ト爲リテ假如敢テ己カ品行ヲ省ミサルモノモ膝下ヲ環繞スル子弟ニ在テハ其品行ノ端正ナルヲ欲セサルモノ無シ是レ法律ノ所有主ニ信任シテ之ニ遺囑ヲ作ルノ權利ヲ付托セシ所以ナリ○譬ヘハ財産ノ所有主ハ勸懲法ノ一部タル遺囑ヲ作ルノ權ヲ掌握シテ所謂家族ナル一小國ニ君臨シ其平和安寧ヲ維持スルモノ如シ但シ此君主ハ曾テ一箇ノ責任ヲ有セス或ハ公議ノ之ヲ束制スルモノアラサルヨリ其權ヲ濫用シテ偏頗不正ノ政ニ流レ其害ハ一國君主ヨリ一層

甚シキモノアリト雖モ其間子女ヲ顧慮スルノ心ト慈愛ノ情ト絶エス發出シテ始終其義務ヲ怠ラサラシメサルヲ以テ此二者ハ其害ヲ防キテ尚ホ餘地アルモノト謂ハサル可カラス○且夫レ人トシテ其妻子ヲ愛憐スルハ固ヨリ天性ニ出ル所ナレハ此至情ヲ將テ其義務ヲ竭スノ抵當トナサシムルハ猶ホ彼ノ政治上ノ官吏ヲシテ品行ノ端正ヲ保證センカ爲メニ抵當ヲ出サシムルニ異ナルヲ無シ然ラハ則チ此一家内ノ君主ニ權柄ヲ與フルハ帝ニ幼弱ナル子女ノ爲メニ必須缺ク可カラサルノミナラス又成年



タルモノ、爲ノニモ其利ハ其害ヨリ却テ大ナルモノアリ

第三 遺囑ヲ作ルノ權利ハ亦他ノ一點ニ於テ利益タリ即チ主長ノ名義ヲ以テ治理ノ具トスル所ニシテ前文ノ如ク順從スル者ノ福利タルニアラス唯命令スル者ノ福利タルヲ謂フ是現世人ヲシテ其權利ヲ推シテ後世ニ及ホサシメ之ニ由テ所有主ノ富ハ自ラ加倍スルノ理ナリ何トナレハ恰モ己カ死後ニ至テ支出スヘキ爲替證券ヲ發作スルニ異ナラサルカ故ニ其効用ハ現今所有セル物件ノ利益ヨリモ更ニ

著大ナルモノヲ享用シ得ヘク且之ヲ子女成長ノ後ニ配與スルヲ以テ益子女ノ孝順ヲ増シ從テ鞠育ノ報ニ食ムト更ニ厚渥ニシテ子女ノ不孝ヲ防クヘキノ一大保障ト爲ルヲ以テナリ固ヨリ父子ノ間ハ天倫ノ存スルアリ此等ノ預防ハ徒ニ蛇足ニ屬スト謂フカ如キハ決シテ其理ナキニアラスト雖モ制法者ハ宜シク遠ク耄耋ノ衰態ヲ顧ミ人爲ノ規則ヲ設ケテ以テ其憂苦ヲ未然ニ慮ラサル可ラス嗚呼胸隙泡影少壯ノ盛時忽チ過テ龍鍾ノ衰態ヲ現スルニ至レハ苟モ老後ノ依靠トナルヘキモノハ務メテ之ヲ保



存セサル可ラス故ニ夫ノ人類ノ利欲心ヲ假用シ以テ子女ヲシテ義務ヲ竭サシムルノ釣餌トスルモ決シテ不可ナルヲナカル可シ

夫レ子女不孝ニシテ耄耋ヲ侮慢スルカ如キハ實ニ文明社會ニ於テハ僅有絶無ノ惡行ナリ然ルニ彼ノ遺囑ヲ作ルノ權利ニ至テハ多少之ヲ設立セサルノ邦土無シ敢テ問フ此惡行ノ如キハ遺囑ヲ作ルノ權利ヲ制限スルノ最モ甚シキ處ニ於テ殊ニ其弊アリトスルカ曰ク宜シク財産ノ遺スヘキ無キ貧家ノ情態ヲ觀察シテ而シテ後始テ此問題ヲ判決ス可シ蓋

シ此言頗ル妄斷ニ近キカ如キモ然モ法律ノ力ニ頼リテ遺囑ヲ作ルノ權利ヲ以テ社會一般ノ定則トナス時ハ其作用ハ以テ一國ノ風習ヲ爲シ其流行スルニ從テ遂ニ人心ヲ感動スルニ因テ財産ニ富ム處ノ父タル者ハ固ヨリ此權利アルカ爲メニ其威光ヲ増加スル而已ナラス彼ノ貧困ニシテ之ヲ得能ハサルモノモ一國ノ風習ノ然ラシムル處ニ依リテ子女悉ク順從ノ義務ヲ竭スカ故ニ間接ニ於テ無量ノ福利ヲ得ルニ至ルヘキナリ



シテ謀慮スル處アリテ其暴虐ニ流ル、トテ抑制セ  
 サル可ラス是レ己ニ子女ヲ以テ過失アルヲ免レサ  
 サルモノトナスキハ父モ又過失ナキヲ保チ難キカ  
 故ニ假令法律ニ於テハ其子女ヲ懲責スルノ權ヲ舉  
 テ之ヲ父ニ與フト雖モ敢テ子女ニ衣食ヲ給セスシ  
 テ其死ヲ致サシムルノ權利アリト謂フニハアラサ  
 ルナリ佛蘭西ノ法律ニレヂチムト稱スル制度ア  
 リ其法ハ以テ子女タル者全ク遺産ノ紹續スルノ權  
 ヲ失フトテ保護スルモノニシテ能ク一家ノ無政ニ  
 陷ルトテ父權ノ專暴ニ流ル、トテ中庸ヲ得タルノ

良制ナリ然レモ若シ法律ニ掲出セル一定ノ原因ア  
 リ而テ裁判法廳ノ認許ヲ得ルハ此レヂチムノ  
 條款ト雖モ父權ヲ以テ除棄スルトテ得ヘシ  
 問フ己ニ天倫ノ承業者之レナキ時ハ所有主ハ其疎  
 屬或ハ全ク他人ナルヲ問ハス唯其意ノ欲スル所ニ  
 從テ財産ヲ遺贈ス可キ權利アリヤ曰ク果シテ然ル  
 ハ大ニ第三回ニ於テ論セシ公有ノ源泉減削スレ  
 ハ單ニ之ヲ遺囑無キ財産ノ一途ニノミ用ユヘシ○  
 實利ノ原理茲ニ至テ二端ニ分注スルカ故ニ今中庸  
 不偏ノ道ヲ拈出スルト左ノ如シ



血肉ノ親ナキ人ハ他人ノ侍養ニ頼ラサルヘカラス  
而シテ其人ノ此侍養ヲ盡ス人ヲ視ルハ親愛ノ情固  
ヨリ戚屬ニ異ラサルヲ以テ宜シク忠僕義婢ノ希望  
心ヲ培養シ其功勞ニ報酬シ併セテ又且夕左右ニ在  
リテ看護怠ラサルモノ、憂苦ヲ慰メシメンカ爲メ  
ニ一種ノ方便ヲ設ケサル可カラス但シ一朝婚禮ノ  
式ヲ行フ時ハ忽チ未亡人ノ稱ヲ得ヘキ女子ト制法  
者ヲ除クノ外衆目ノ視テ以テソノ子女ト認ムヘキ  
孤兒ハ固ヨリ此論題ノ外ナリトス  
若シ然ラスシテ專ラ公帑ノ増殖ニ著目スルヨリ各

私人ノ朋友ニ財産ヲ遺贈スルノ權利ヲモ奪取スル  
片ハ正シク強促ノ法ヲ制シテ以テ終身ノ間ニ之ヲ  
費用ニ竭サシムルノ道理ニ當リ其人ハ棺ヲ蓋フヤ  
否ヤ忽チ財産ヲ支配スルノ自由ヲ失フヘキヲ知ル  
ニ因テ必ス之ヲ舉テ其一身ノ侈費ニ供スルニ至ラ  
ン此ノ如クナレハ浪費ノ風大ニ增長シテ宛モ理財  
ノ源ヲ濁亂スルノ法律ヲ制定スルニ異ナラサル可  
シ  
前文ノ理趣ハ公帑ノ増殖ヨリモ其利害更ニ重大ナ  
ルカ故ニ親屬ナキ所有主ニハ死後ニ於テ少クモ其



遺産ノ半額ハ必ス之ヲ自由ニ所分シ他ノ半額ヲ公  
帑ニ歸セシムヘキノ法律ヲ制定セサル可ラス是レ  
制法者カ少数ヲ取りテ満足スルハ却テ大數ヲ得ル  
ノ方便タルノミナラス加之各人ヲシテ死後自由ニ  
其財産ヲ處分セシメ決シテ之ヲ侵犯セサルハ大ニ  
治圖ノ利害ニ關係スルモノアルカ故ナリ何トナレ  
ハ若シ所有者ヲシテ法律上ノ資格ヲ失シテ半額ノ  
財産ヲ自由ニ處分セシメサルニ至レハ財産アル人  
民ノ境遇ハ却テ他ノ財産ナキモノヨリモ一層慘悽  
ナルヲ免レサレハナリ

生存ノ間ニ財産ヲ讓與スルニ就テ論スル所ノモノ  
ハ盡ク之ヲ遺囑ニ應用スヘシ而シテ大抵遺書<sup>死</sup>ト契  
約<sup>生</sup>トノ協同スル所ヲ以テ之ヲ決定シ得ルモ然モ  
時トシテ亦睽違スルモノアリ察セスンハアル可カ  
ラス  
生存者ノ讓與ヲ消除スルノ原因ハ亦遺囑ヲ消除ス  
ル<sup>ト</sup>ニ活用シ得ルモノニシテ但タ生存ノ讓與ニ於  
テハ受者ノ欺詐隱瞞ヲ以テ原因ト爲シ遺囑ニ於テ  
ハ遺囑ヲ作ル人ノ誤認ヲ以テ原因ト爲ス<sup>ト</sup>ヲ要ス  
ルノミ今一ヲ舉テ之ヲ例センニ譬ハハデイトユス



ナルモノアリテ我カ女ト婚姻ヲ約スルカ故ニ我レ  
ハ其婚姻ヲ以テ法律ニ合スルモノト想像シテ一定  
ノ財産ヲ遺贈セシニ豈計ランヤ此デイトユスハ品  
行不實ノ者ニシテ我カ女ヲ娶ル前己ニ他人ト婚姻  
ヲ約シテソノ夫婦ノ義務今日ニ存シテ消失セサル  
カ如キ是レナリ

遺囑ハ不幸ニシテ宛モ四面敵受ノ如キ形情アリ何  
ソマ若シ呼吸ノ將ニ息ムニ臨ミテ立ル所ノ遺囑ヲ  
以テ正當ノモノト認許スヘキ耶然ルキハ遺囑ヲ立  
ルノ人ハ壓制ニ苦シク欺詐ヲ受ルノ害ヲ免レサル

ハシ○將夕草率ヲ防カンカ爲メニ嚴格ナル規則ヲ  
立ン耶然ルキハ遺囑ヲ立ルノ人ハ氣息奄々トシテ  
正ニ他人ノ看護侍養ヲ需ムル際ニ其品行ヲ支配ス  
ルノ權利ヲ奪ル、モノアラシ○又兇險ナル承業者  
ハ速ニ遺囑ノ利益ヲ受用センカ爲メニ其人ヲ苛責  
虐待スルニ至ルヘシ○夫レ氣息將ニ絶エントスル  
人ハ己ニ人ニ物ヲ與フルヲ能ハス又物ヲ奪フヲ能  
ハサレハ此等ノ弊害ヲ減シテ極微ニ至ラシメント  
スルニハ特ニ許多ノ規則ヲ制定セサレハ能ハサル  
ナリ



